次期総合計画策定のための市政アンケート調査

集計結果

令和４年９月

鈴鹿市

目　　次

第１章　調査の概要 ····· 1
第２章　調査結果 ····· 2
　Ⅰ．回答者属性 ····· 2
　Ⅱ．アンケート ····· 7
　【問１】　居住理由ついて ····· 7
　【問２】　住みやすさについて ····· 8
　【問３】　定住意向について ····· 9
　【問４】　市政に対する満足度，重要と思う取組について
　　（１）　　調査分野・項目 ····· 12
　　（２－１）　満足度割合の状況について ····· 13
　　（２－２）　満足度評価の状況について ····· 14
　　（３）　　重要度評価の状況について ····· 25
　　（４）　　満足度及び重要度評価のグラフ化について ····· 36
　【問５】　地域活動への過去３年以内の参加経験について ····· 39
　【問６】　「地域づくり協議会」の認知度について ····· 41
　【問７】　まちづくりを進めるために必要なことについて ····· 42
　【問８】　ＳＤＧｓの認知度について ····· 43
　【問９】　人口減少への抑止策について ····· 44
　【問１０】市政全般についてのご意見・ご提案について ····· 47

第１章　調査の概要

1．調査の目的

この調査は，市民の市政に対する満足度や市民ニーズなどを把握することにより，次期総合計画の策定において，市民の声を指標の設定や今後の具体的な取組みの基礎資料とすることを目的として実施しました。

2．調査の設計

(1)調査対象　市内在住の 18 歳以上の市民

(2)対象者数　4,000 人

(3)抽出方法　多段階無作為抽出(令和4年5月 15 日現在の住民基本台帳から抽出)

(4)調査方法　郵送により調査票を配布し，郵送又は WEB で回答

(5)調査時期　令和4年6月８日から７月８日まで

3．回収結果

(1)有効回答数(率)　1,378 人(34.5%)　※郵送回答 1,165 人，WEB 回答 213 人

(2)無効調査数(率)　2,622 人(65.5%)

4．調査地域区分

地域別の分析を行うに当たり，鈴鹿市を下記の4地域に区分しました。

【地域区分】

西部地域(9地区)	庄野，加佐登，石薬師，井田川，久間田，椿，深伊沢，鈴峰，庄内
中央地域(5地区)	牧田，飯野，河曲，玉垣，神戸
南部地域(5地区)	国府，稲生，栄，天名，合川
東部地域(4地区)	白子，一ノ宮，箕田，若松

5．集計方法

全 62 項目における回答についての単純集計に加え，一部項目については，設問間(クロス)集計(年代別，地域別など)を実施しています。

また，市民の満足度・重要度を問う設問については，相関関係を計るため，重要度評価の指標を縦軸に，満足度評価の指標を横軸に散布図を作成しました。

なお，集計結果については，全て小数点以下第2位を四捨五入しているため，比率の合計が100%にならないことがあります。

第２章　調査結果

Ⅰ．回答者属性

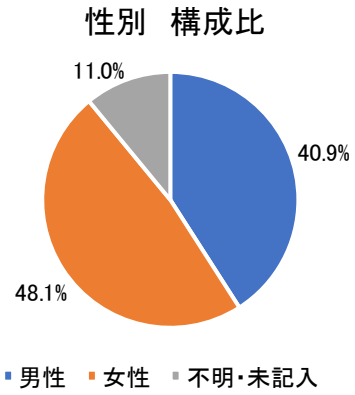
1.　性別構成について

【性別構成比】

カテゴリ	配布数（人）	構成比（%）	回答数（人）	構成比（%）
男性	1989	49.7	564	40.9
女性	2011	50.3	663	48.1
不明・未記入	-	-	151	11.0
合計	4000	100.0	1378	100.0

＜＜前回アンケート調査[平成26年]＞＞

カテゴリ	配布数（人）	構成比（%）	回答数（人）	構成比（%）
男性	1990	49.8	684	43.3
女性	2010	50.3	839	53.1
不明・未記入	-	-	57	3.6
合計	4000	100.0	1580	100.0



前回アンケート調査[平成 26 年]と比べ，男性，女性の割合が減少し，不明･未記入の割合が増加しました。

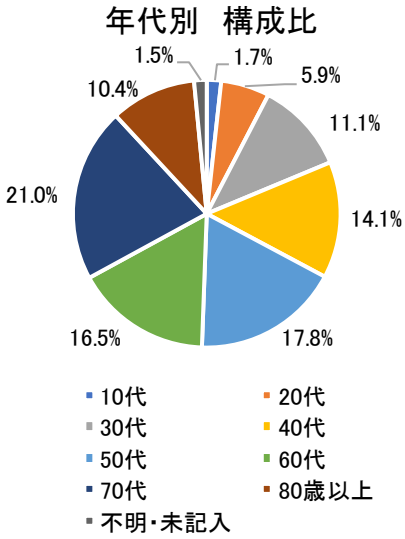
2. 年代構成について

【年代別構成比】

カテゴリ	配布数（人）	構成比（%）	回答数（人）	構成比（%）
10代	105	2.6	24	1.7
20代	472	11.8	81	5.9
30代	547	13.7	153	11.1
40代	656	16.4	194	14.1
50代	718	18.0	245	17.8
60代	526	13.2	227	16.5
70代	614	15.4	290	21.0
80歳以上	362	9.1	143	10.4
不明・未記入	-	-	21	1.5
合計	4000	100.0	1378	100.0

＜＜前回アンケート調査[平成26年]＞＞

カテゴリ	配布数（人）	構成比（%）	回答数（人）	構成比（%）
10代	101	2.5	18	1.1
20代	524	13.1	135	8.5
30代	668	16.7	195	12.3
40代	764	19.1	264	16.7
50代	565	14.1	255	16.1
60代	652	16.3	339	21.5
70歳以上	726	18.2	355	22.5
不明・未記入	-	-	19	1.2
合計	4000	100.0	1580	100.0



前回アンケート調査[平成 26 年]の「70 歳以上」カテゴリーを，「70 代」と「80 歳以上」に分けて調査しました。

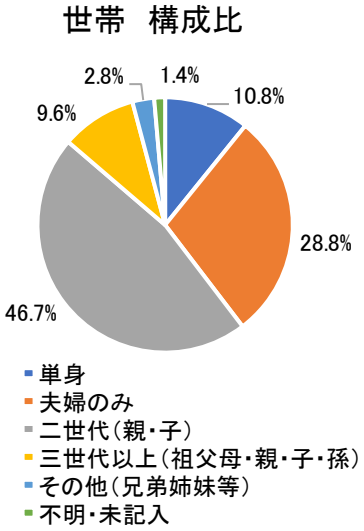
3－1. 世帯構成について

【世帯別構成比】

カテゴリ	回答数（人）	構成比（%）
単身	149	10.8
夫婦のみ	397	28.8
二世代（親・子）	643	46.7
三世代以上（祖父母・親・子・孫）	132	9.6
その他（兄弟姉妹等）	38	2.8
不明・未記入	19	1.4
合計	1378	100.0

＜＜前回アンケート調査[平成26年]＞＞

カテゴリ	回答数（人）	構成比（%）
単身	146	9.2
夫婦のみ	413	26.1
二世代（親・子）	725	45.9
三世代以上（祖父母・親・子・孫）	239	15.1
その他（兄弟姉妹等）	57	3.6
合計	1580	100.0



前回アンケート調査[平成 26 年]と比べ，ほぼ同様の構成比となっています。「単身者」と「夫婦のみ」世帯について，「3－2」と「3－3」でさらに分析を行いました。

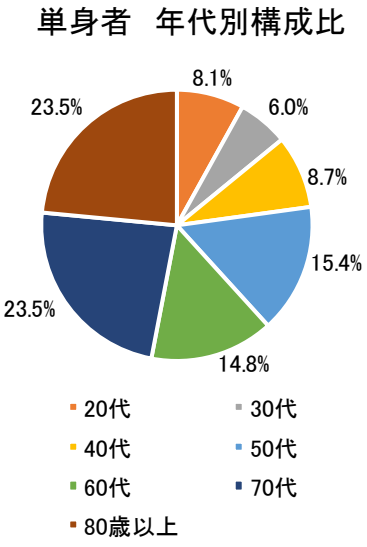
3－2. 単身者のさらなる分析について

【単身者の年代別構成比】

カテゴリ	回答数（人）	構成比（%）
10代	0	0.0
20代	12	8.1
30代	9	6.0
40代	13	8.7
50代	23	15.4
60代	22	14.8
70代	35	23.5
80歳以上	35	23.5
不明・未記入	0	0.0
合計	149	100.0

＜＜前回アンケート調査[平成26年]＞＞

カテゴリ	回答数（人）	構成比（%）
10代	0	0.0
20代	16	11.0
30代	10	6.8
40代	13	8.9
50代	17	11.6
60代	32	21.9
70歳以上	39	26.7
不明・未記入	19	13.0
合計	146	100.0

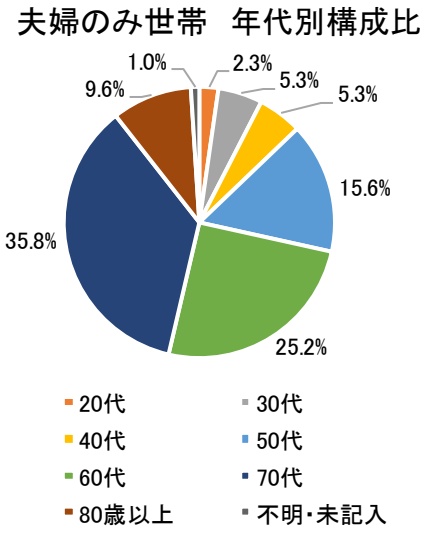


前回アンケート調査[平成 26 年]と比べ，60 代以上の割合は 13.2 ポイント増えて 61.8%となりました。

3－3. 夫婦のみ世帯のさらなる分析について

【夫婦のみ世帯の年代別構成比】

カテゴリ	回答数（人）	構成比（%）
10代	0	0.0
20代	9	2.3
30代	21	5.3
40代	21	5.3
50代	62	15.6
60代	100	25.2
70代	142	35.8
80歳以上	38	9.6
不明・未記入	4	1.0
合計	397	100.0



＜＜前回アンケート調査[平成26年]＞＞

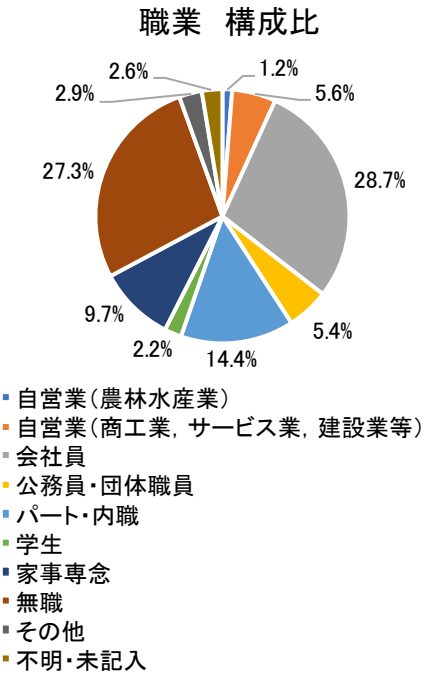
カテゴリ	回答数（人）	構成比（%）
10代	0	0.0
20代	8	1.9
30代	26	6.3
40代	23	5.6
50代	65	15.7
60代	137	33.2
70歳以上	154	37.3
不明・未記入	0	0.0
合計	413	100.0

前回アンケート調査[平成 26 年]と同様に，夫婦のうち，いずれかの年齢が 60 代以上である世帯の割合は約7割を占める 70.6%となりました。

4. 職業等について

【職業構成比】

カテゴリ	回答数（人）	構成比（%）
自営業（農林水産業）	17	1.2
自営業（商工業，サービス業，建設業等）	77	5.6
会社員	395	28.7
公務員・団体職員	74	5.4
パート・内職	199	14.4
学生	30	2.2
家事専念	134	9.7
無職	376	27.3
その他	40	2.9
不明・未記入	36	2.6
合計	1378	100.0



＜＜前回アンケート調査[平成26年]＞＞

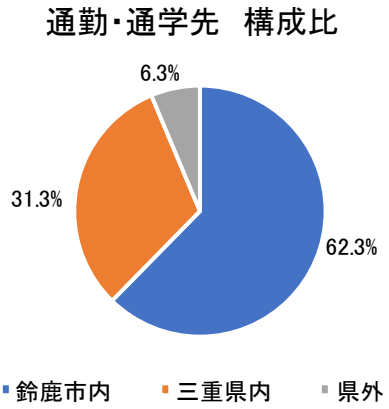
カテゴリ	回答数（人）	構成比（%）
自営業（農林水産業）	42	2.7
自営業（商工業，サービス業，建設業等）	105	6.6
会社員	393	24.9
公務員・団体職員	66	4.2
パート・内職	229	14.5
学生	49	3.1
家事専念	203	12.8
無職	404	25.6
その他	58	3.7
不明・未記入	31	2.0
合計	1580	100.0

前回アンケート調査[平成 26 年]とほぼ同様の構成比となりました。

5. 通勤･通学について

【通勤・通学先構成比】

カテゴリ	回答数（人）	構成比（%）
鈴鹿市内	533	62.3
三重県内	268	31.3
県外	54	6.3
合計	855	100.0



＜＜前回アンケート調査[平成26年]＞＞

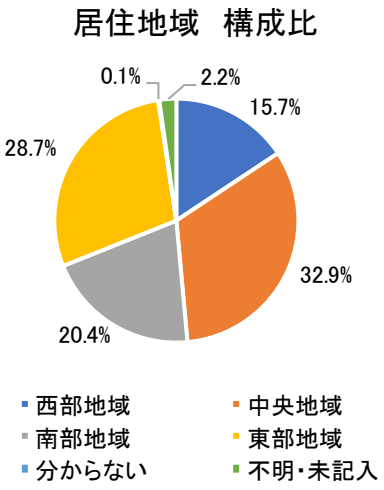
カテゴリ	回答数（人）	構成比（%）
鈴鹿市内	488	61.0
三重県内	251	31.4
県外	61	7.6
合計	800	100.0

前回アンケート調査[平成 26 年]とほぼ同様の構成比となりました。

6－1. 居住地域別構成について

【居住地域構成比】

カテゴリ	配布数	構成比	回答数	構成比
西部地域	597	14.9	216	15.7
中央地域	1442	36.1	453	32.9
南部地域	761	19.0	281	20.4
東部地域	1200	30.0	395	28.7
分からない	-	-	2	0.1
不明・未記入	-	-	31	2.2
合計	4000	100.0	1378	100.0



＜＜前回アンケート調査[平成26年]＞＞

カテゴリ	配布数（人）	構成比（%）	回答数（人）	構成比（%）
西部地域	626	15.7	267	16.9
中央地域	1387	34.7	481	30.4
南部地域	784	19.6	312	19.7
東部地域	1203	30.1	432	27.3
分からない	-	-	61	3.9
不明・未記入	-	-	27	1.7
合計	4000	100.0	1580	100.0

前回アンケート調査[平成 26 年]とほぼ同様の構成比となりました。

6－2. 地域別年代構成について

【地域別の年代構成(比)】

年代	西部地域		中央地域		南部地域		東部地域		不明		合計	
	回答数（人）	構成比（%）	回答数（人）	構成比（%）	回答数（人）	構成比（%）	回答数（人）	構成比（%）	回答数（人）	構成比（%）	回答数（人）	構成比（%）
10代	5	2.3%	6	1.3%	3	1.1%	10	2.5%	0	0.0%	24	1.7%
20代	9	4.2%	34	7.5%	13	4.6%	25	6.3%	0	0.0%	81	5.9%
30代	15	6.9%	64	14.1%	29	10.3%	44	11.1%	1	3.0%	153	11.1%
40代	30	13.9%	62	13.7%	38	13.5%	61	15.4%	3	9.1%	194	14.1%
50代	44	20.4%	86	19.0%	39	13.9%	68	17.2%	8	24.2%	245	17.8%
60代	42	19.4%	60	13.2%	61	21.7%	61	15.4%	3	9.1%	227	16.5%
70代	41	19.0%	87	19.2%	76	27.0%	75	19.0%	11	33.3%	290	21.0%
80歳以上	26	12.0%	46	10.2%	20	7.1%	46	11.6%	5	15.2%	143	10.4%
不明・未記入	4	1.9%	8	1.8%	2	0.7%	5	1.3%	2	6.1%	21	1.5%
合計	216	100%	453	100%	281	100%	395	100%	33	100%	1378	100%

＜＜前回アンケート調査[平成26年]＞＞

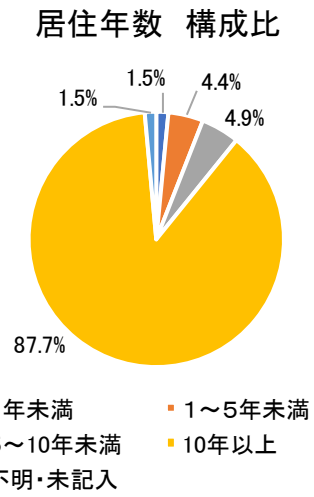
年代	西部地域		中央地域		南部地域		東部地域		不明		合計	
	回答数（人）	構成比（%）	回答数（人）	構成比（%）	回答数（人）	構成比（%）	回答数（人）	構成比（%）	回答数（人）	構成比（%）	回答数（人）	構成比（%）
10代	1	0.4%	3	0.6%	6	1.9%	6	1.4%	2	2.3%	18	1.1%
20代	21	7.9%	39	8.1%	26	8.3%	34	7.9%	15	17.0%	135	8.5%
30代	24	9.0%	68	14.1%	33	10.6%	50	11.6%	20	22.7%	195	12.3%
40代	38	14.2%	94	19.5%	48	15.4%	73	16.9%	11	12.5%	264	16.7%
50代	52	19.5%	69	14.3%	50	16.0%	77	17.8%	7	8.0%	255	16.1%
60代	64	24.0%	100	20.8%	79	25.3%	84	19.4%	12	13.6%	339	21.5%
70歳以上	67	25.1%	108	22.5%	70	22.4%	107	24.8%	3	3.4%	355	22.5%
不明・未記入	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%	18	20.5%	19	1.2%
合計	267	100%	481	100%	312	100%	432	100%	88	100%	1580	100%

前回アンケート調査[平成 26 年]と比べ，南部地域における 60 代以上の割合は，8.1 ポイント増えて 55.9%と過半数になりました。

7. 居住年数について

【居住年数構成比】

カテゴリ	回答数（人）	構成比（%）
1年未満	21	1.5
1～5年未満	61	4.4
5～10年未満	67	4.9
10年以上	1209	87.7
不明・未記入	20	1.5
合計	1378	100.0



＜＜前回アンケート調査[平成26年]＞＞

カテゴリ	回答数（人）	構成比（%）
1年未満	22	1.4
1～5年未満	82	5.2
5～10年未満	79	5.0
10年以上	1375	87.0
不明・未記入	22	1.4
合計	1580	100.0

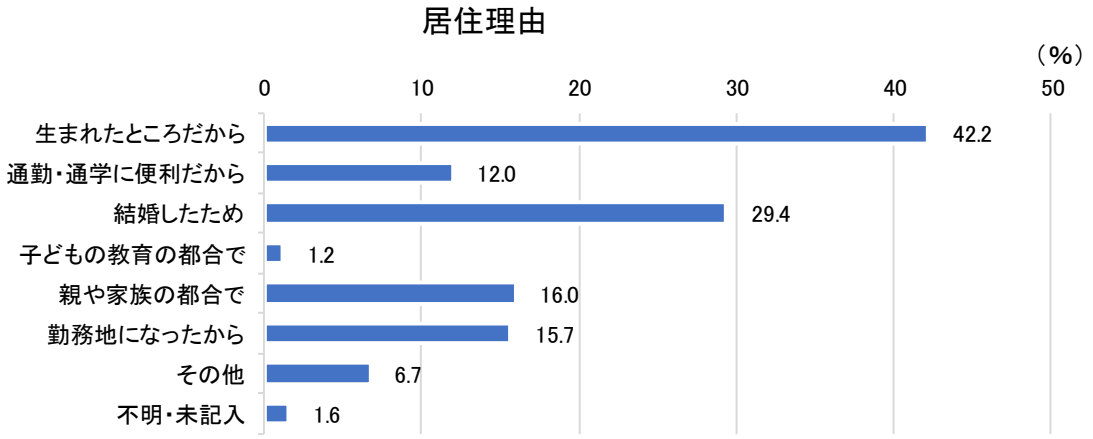
前回アンケート調査[平成 26 年]とほぼ同様の構成比となりました。

Ⅱ．アンケート

【問1】. 居住理由について

【居住理由】　（複数回答）

カテゴリ	回答数（人）	構成比（%）
生まれたところだから	581	42.2
通勤・通学に便利だから	165	12.0
結婚したため	405	29.4
子どもの教育の都合で	17	1.2
親や家族の都合で	220	16.0
勤務地になったから	216	15.7
その他	93	6.7
不明・未記入	22	1.6
合計	1378	

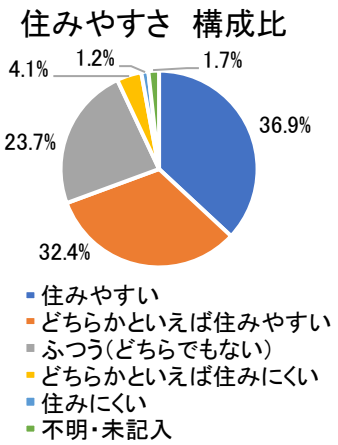


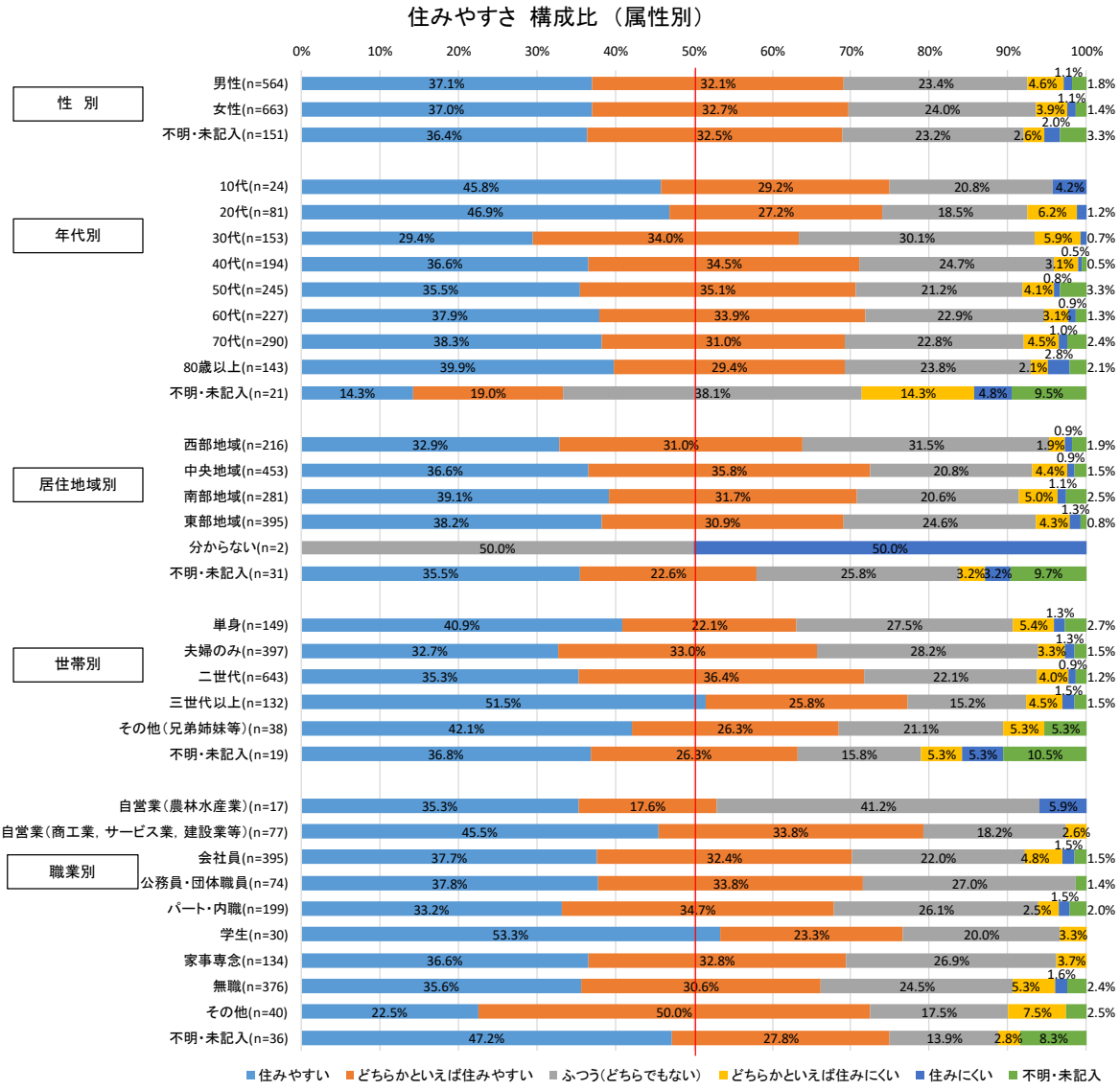
居住理由は，「生まれたところだから」(42.2%)が4割超と最も高く，次いで「結婚したため」(29.4%)，「親や家族の都合で」(16.0%)，「勤務地になったから」(15.7%)となっています。

【問2】. 住みやすさについて

【住みやすさ】

カテゴリ	回答数（人）	構成比（%）
住みやすい	509	36.9
どちらかといえば住みやすい	447	32.4
ふつう（どちらでもない）	326	23.7
どちらかといえば住みにくい	56	4.1
住みにくい	16	1.2
不明・未記入	24	1.7
合計	1378	100.0



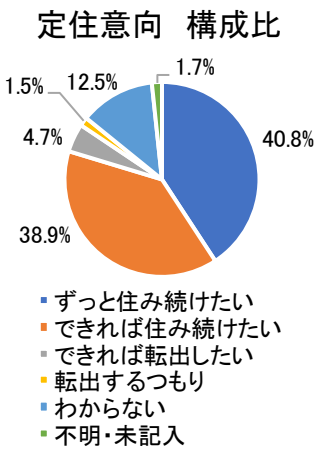


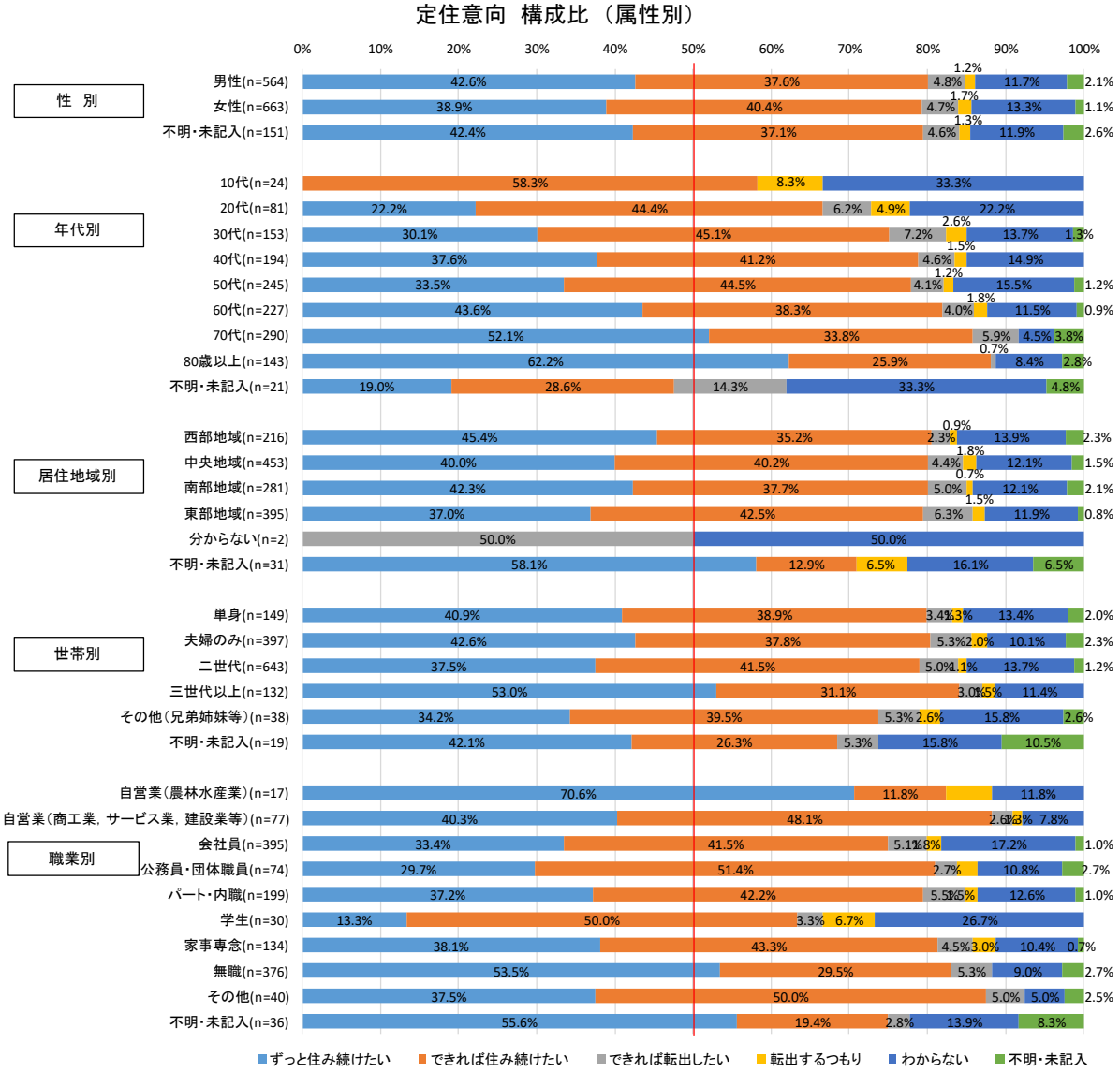
「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合（69.3%）が約7割を占めています。年代別では 10 代と 20 代，居住地域別では中央地域，世帯別では三世代以上の割合が高くなっています。

【問3】. 定住意向について

【定住意向】

カテゴリ	回答数（人）	構成比（%）
ずっと住み続けたい	562	40.8
できれば住み続けたい	536	38.9
できれば転出したい	65	4.7
転出するつもり	20	1.5
わからない	172	12.5
不明・未記入	23	1.7
合計	1378	100.0



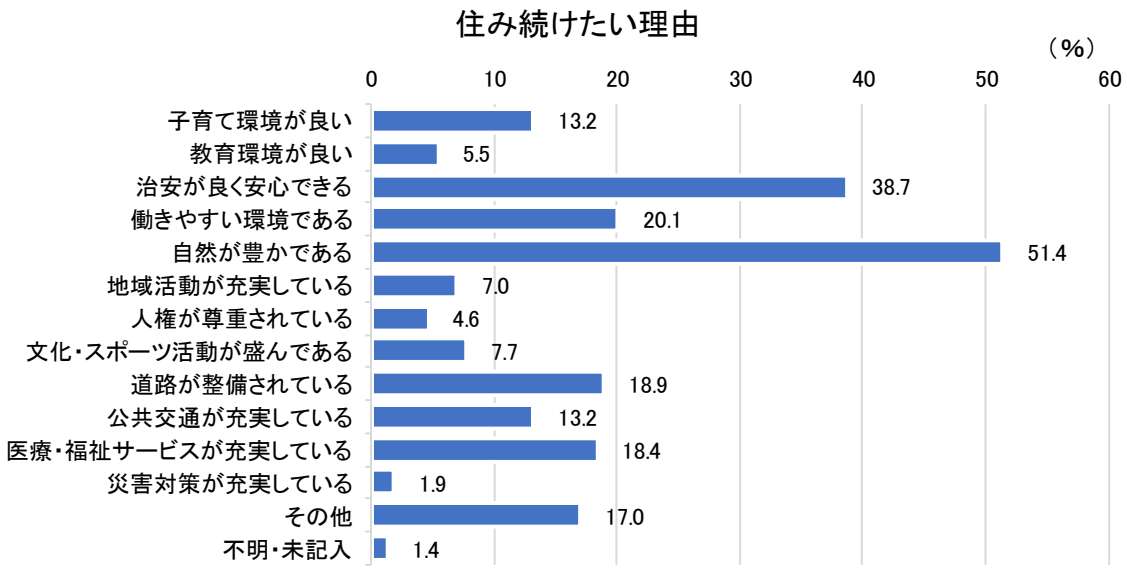


「ずっと住み続けたい」と「できれば住み続けたい」を合わせた割合（79.7%）が約8割を占めています。年代別では高年齢ほど割合が高く，世帯別では三世代以上の割合が高くなっています。居住地域別では各地域ともほぼ同じ割合となりました。

【問3】－1．住み続けたい理由について

【住み続けたい理由】　（複数回答）

カテゴリ	回答数（人）	構成比（%）
子育て環境が良い	145	13.2
教育環境が良い	60	5.5
治安が良く安心できる	425	38.7
働きやすい環境である	221	20.1
自然が豊かである	564	51.4
地域活動が充実している	77	7.0
人権が尊重されている	51	4.6
文化・スポーツ活動が盛んである	85	7.7
道路が整備されている	208	18.9
公共交通が充実している	145	13.2
医療・福祉サービスが充実している	202	18.4
災害対策が充実している	21	1.9
その他	187	17.0
不明・未記入	15	1.4
合計	1098	

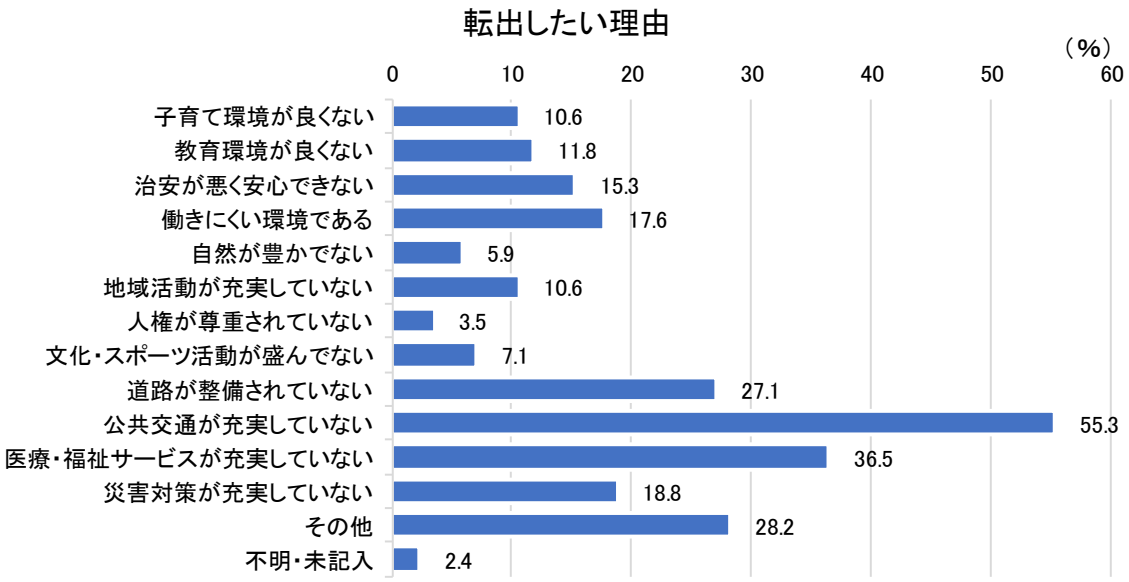


問3で「ずっと住み続けたい」と「できれば住み続けたい」と回答した人の，住み続けたい理由は，「自然が豊かである」（51.4％）が最も高く，次いで「治安が良く安心できる」（38.7％），「働きやすい環境である」（20.1％）となっています。

【問3】－2. 市外に転出したい理由について

【転出したい理由】　（複数回答）

カテゴリ	回答数（人）	構成比（%）
子育て環境が良くない	9	10.6
教育環境が良くない	10	11.8
治安が悪く安心できない	13	15.3
働きにくい環境である	15	17.6
自然が豊かでない	5	5.9
地域活動が充実していない	9	10.6
人権が尊重されていない	3	3.5
文化・スポーツ活動が盛んでない	6	7.1
道路が整備されていない	23	27.1
公共交通が充実していない	47	55.3
医療・福祉サービスが充実していない	31	36.5
災害対策が充実していない	16	18.8
その他	24	28.2
不明・未記入	2	2.4
合計	85	



問3で「できれば転出したい」と「転出するつもり」と回答した人の，転出したい理由は，「公共交通が充実していない」(55.3%)が最も高く，次いで「医療･福祉サービスが充実していない」(36.5%)，「道路が整備されていない」(27.1%)となっています。

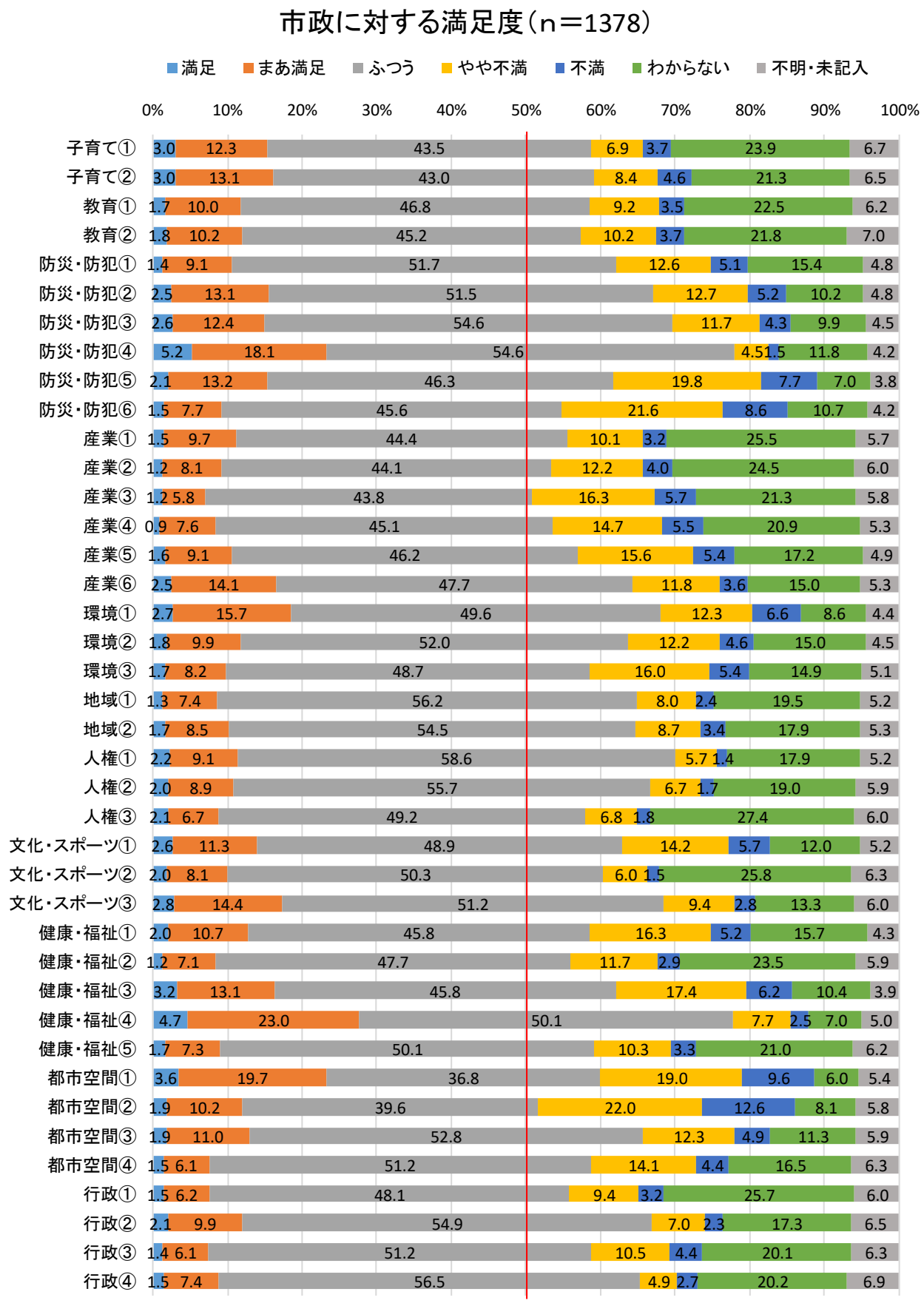
【問4】. 市政に対する満足度，重要と思う取組について

（1）調査分野・項目

11 分野・40 項目について，市政に対する満足度（5段階評価）と重要度（重要だと思うか）について調査しました。

分野	No	項 目 内 容
子育て	①	安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくり
	②	子どもの保育環境と幼児教育環境の整備
教育	①	社会を生き抜く子どもの育成
	②	教育環境の充実
防災・防犯	①	危機管理体制の充実
	②	市民の危機管理意識の醸成
	③	防災力・減災力の向上
	④	消防力の向上と施設などの整備の推進
	⑤	交通事故対策の推進
	⑥	防犯環境づくりの推進
産業	①	産業集積の基盤整備と企業誘致の推進
	②	企業の高度化・高付加価値化の推進
	③	消費活動の更なる活性化推進
	④	誰もが安心して働ける労働環境づくり
	⑤	第一次産業の活性化
	⑥	地域資源の活用による集客・交流人口の増加
環境	①	廃棄物の減量化推進とエネルギーの有効利用
	②	豊かな自然環境の保全
	③	安全・安心で快適な生活環境の構築
地域	①	協働のまちづくりの推進
	②	住民主体のまちづくりの推進
人権	①	平等で平和な社会の実現
	②	男女共同参画社会の実現
	③	多文化共生社会の実現
文化・スポーツ	①	自ら学び，広げる文化と生涯学習活動の推進
	②	文化財保護の推進
	③	スポーツを通じた豊かさの醸成
健康・福祉	①	地域に根ざした高齢者福祉の推進
	②	地域共生社会の実現に向けた障がい者福祉の推進
	③	医療体制・制度の充実
	④	健康の維持と増進
	⑤	自立した暮らしの充実
都市空間	①	整備優先度の高い道路の整備
	②	移動空間の安全性・利便性の確保と公共交通の利便性の向上
	③	都市施設の効率的な整備と維持管理の推進
	④	効果的な規制・誘導による快適でやすらぎのあるまちづくりの促進
行政	①	職員力と組織力の強化
	②	行政経営力の更なる強化
	③	財源の確保と計画的な財政運営
	④	適正な事務執行

（２－１）満足度割合の状況について



（2－2）満足度評価の状況について

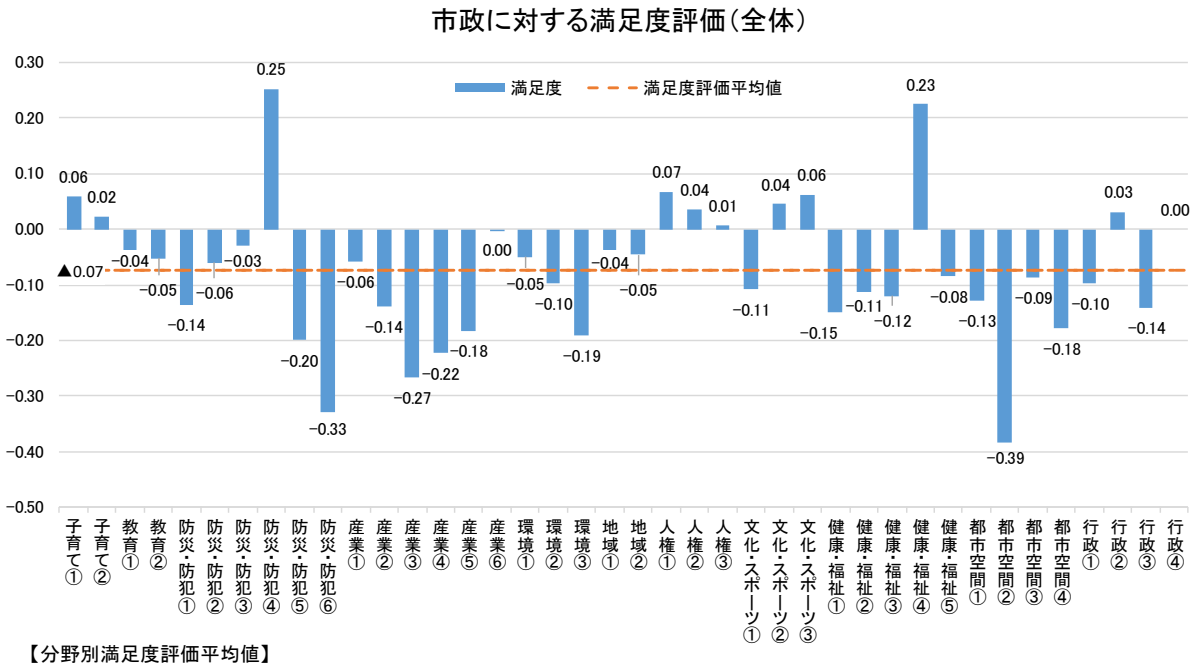
【満足度評価に関する計算式】

$$満足度＝\frac{「満足」×2＋「まあ満足」×1＋「やや不満」×（－1）＋「不満」×（－2）}{全回答数（n）－「わからない」－不明・未記入数}$$

項目	項 目 内 容	満足度評価	順位
子育て①	安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくり	0.06	5
子育て②	子どもの保育環境と幼児教育環境の整備	0.02	9
教育①	社会を生き抜く子どもの育成	▲ 0.04	15
教育②	教育環境の充実	▲ 0.05	18
防災・防犯①	危機管理体制の充実	▲ 0.14	29
防災・防犯②	市民の危機管理意識の醸成	▲ 0.06	20
防災・防犯③	防災力・減災力の向上	▲ 0.03	13
防災・防犯④	消防力の向上と施設などの整備の推進	0.25	1
防災・防犯⑤	交通事故対策の推進	▲ 0.20	36
防災・防犯⑥	防犯環境づくりの推進	▲ 0.33	39
産業①	産業集積の基盤整備と企業誘致の推進	▲ 0.06	19
産業②	企業の高度化・高付加価値化の推進	▲ 0.14	30
産業③	消費活動の更なる活性化推進	▲ 0.27	38
産業④	誰もが安心して働ける労働環境づくり	▲ 0.22	37
産業⑤	第一次産業の活性化	▲ 0.18	34
産業⑥	地域資源の活用による集客・交流人口の増加	▲ 0.00	12
環境①	廃棄物の減量化推進とエネルギーの有効利用	▲ 0.05	17
環境②	豊かな自然環境の保全	▲ 0.10	23
環境③	安全・安心で快適な生活環境の構築	▲ 0.19	35
地域①	協働のまちづくりの推進	▲ 0.04	14
地域②	住民主体のまちづくりの推進	▲ 0.05	16
人権①	平等で平和な社会の実現	0.07	3
人権②	男女共同参画社会の実現	0.04	7
人権③	多文化共生社会の実現	0.01	10
文化・スポーツ①	自ら学び，広げる文化と生涯学習活動の推進	▲ 0.11	25
文化・スポーツ②	文化財保護の推進	0.04	6
文化・スポーツ③	スポーツを通じた豊かさの醸成	0.06	4
健康・福祉①	地域に根ざした高齢者福祉の推進	▲ 0.15	32
健康・福祉②	地域共生社会の実現に向けた障がい者福祉の推進	▲ 0.11	26
健康・福祉③	医療体制・制度の充実	▲ 0.12	27
健康・福祉④	健康の維持と増進	0.23	2
健康・福祉⑤	自立した暮らしの充実	▲ 0.08	21
都市空間①	整備優先度の高い道路の整備	▲ 0.13	28
都市空間②	移動空間の安全性・利便性の確保と公共交通の利便性の向上	▲ 0.39	40
都市空間③	都市施設の効率的な整備と維持管理の推進	▲ 0.09	22
都市空間④	効果的な規制・誘導による快適でやすらぎのあるまちづくりの促進	▲ 0.18	33
行政①	職員力と組織力の強化	▲ 0.10	24
行政②	行政経営力の更なる強化	0.03	8
行政③	財源の確保と計画的な財政運営	▲ 0.14	31
行政④	適正な事務執行	0.00	11

満足度評価平均値：▲0.07

全 40 項目のうち，10 項目の満足度がプラス，29 項目の満足度がマイナスとなり，マイナスとなった項目数がプラスとなった項目数を 19 項目上回りました。全 40 項目の満足度評価平均値は▲0.07 となりました。



【分野別満足度評価平均値】

分　野	満足度評価平均値
子育て（2項目）	0.04
教育（2項目）	▲ 0.05
防災・防犯（6項目）	▲ 0.08
産業（6項目）	▲ 0.14
環境（3項目）	▲ 0.11
地域（2項目）	▲ 0.04
人権（3項目）	0.04
文化・スポーツ（3項目）	▲ 0.00
健康・福祉（5項目）	▲ 0.05
都市空間（4項目）	▲ 0.19
行政（4項目）	▲ 0.05

【満足度評価が高い上位5項目】

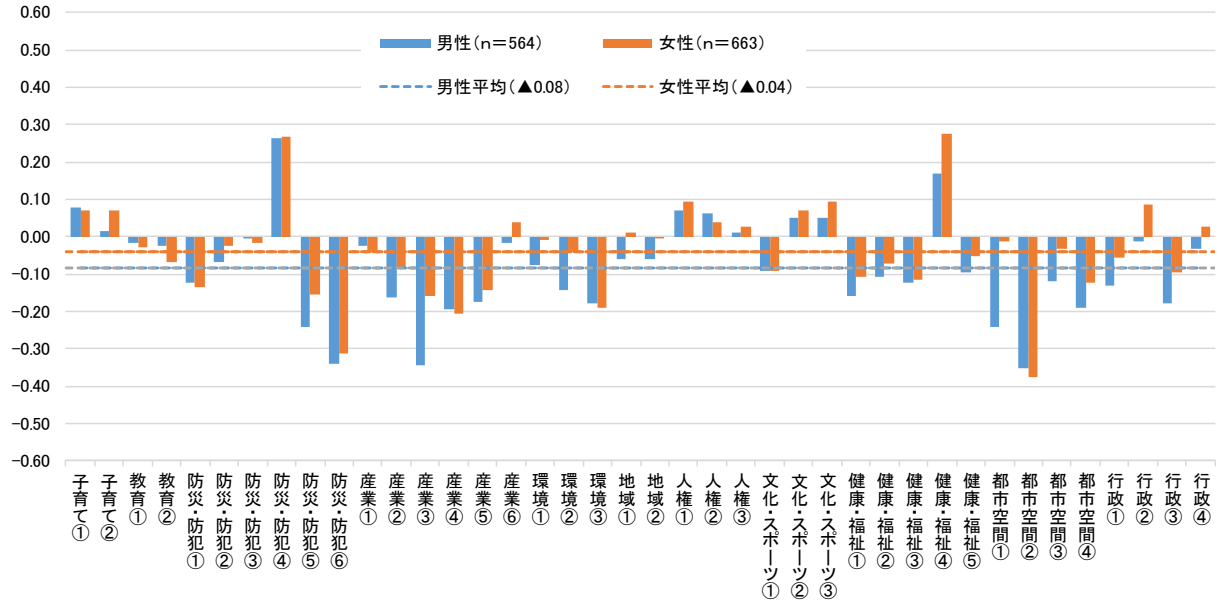
順位	項目内容	満足度評価
1	消防力の向上と施設などの整備の推進（防災・防犯④）	0.25
2	健康の維持と増進（健康・福祉④）	0.23
3	平等で平和な社会の実現（人権①）	0.07
4	スポーツを通じた豊かさの醸成（文化・スポーツ③）	0.06
5	安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくり（子育て①）	0.06

【満足度評価が低い上位5項目】

順位	項目内容	満足度評価
40	移動空間の安全性・利便性の確保と公共交通の利便性の向上（都市空間②）	▲ 0.39
39	防犯環境づくりの推進（防災・防犯⑥）	▲ 0.33
38	消費活動の更なる活性化推進（産業③）	▲ 0.27
37	誰もが安心して働ける労働環境づくり（産業④）	▲ 0.22
36	交通事故対策の推進（防災・防犯⑤）	▲ 0.20

分野別でみると，子育て分野と人権分野の満足度が最も高く，都市空間分野の重要度が最も低くなりました。子育て分野と人権分野の満足度がプラスとなった一方，他の9分野はマイナスとなりました。項目別でみると，防災・防犯④「消防力の向上と施設などの整備の推進」の満足度が最も高く，都市空間②「移動空間の安全性・利便性の確保と公共交通の利便性の向上」が最も低くなりました。子育て分野と人権分野では全ての項目がプラスとなった一方，教育，産業，環境，地域，都市空間の各分野では全ての項目がマイナスとなりました。

【満足度評価（性別）】



【満足度評価が高い上位3項目（性別）】

性別	トップ1	トップ2	トップ3
男性	防災・防犯④	健康・福祉④	子育て①
女性	健康・福祉④	防災・防犯④	文化・スポーツ③

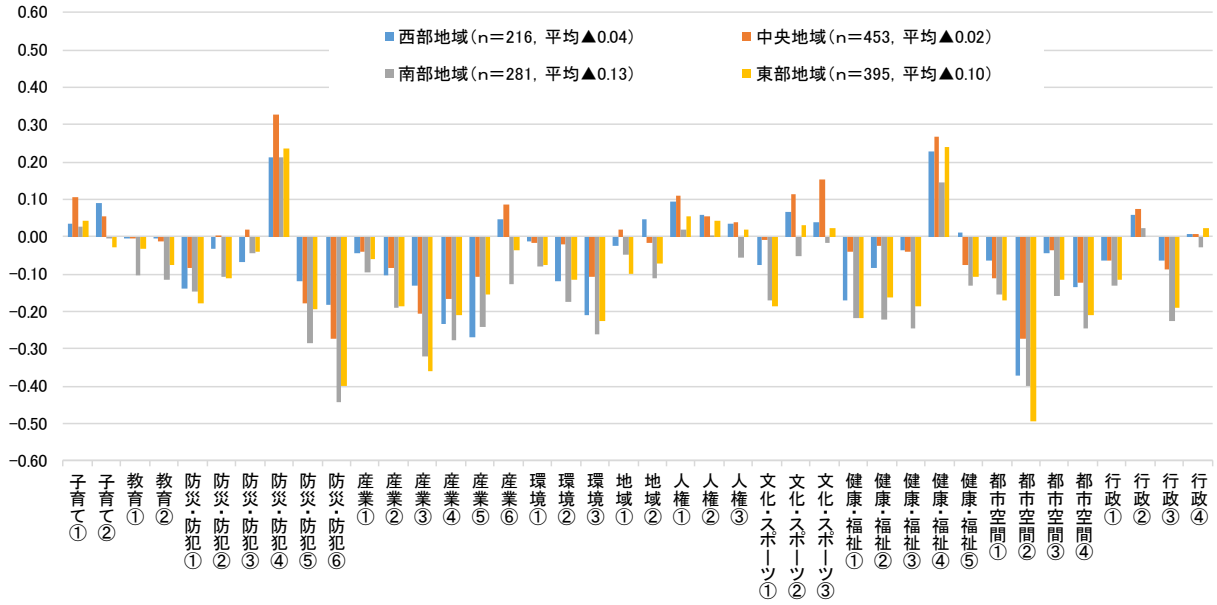
【満足度評価が低い上位3項目（性別）】

性別	ワースト1	ワースト2	ワースト3
男性	都市空間②	産業③	防災・防犯⑥
女性	都市空間②	防災・防犯⑥	産業④

男性は防災・防犯④「消防力の向上と施設などの整備の推進」の満足度が最も高く，女性は健康・福祉④「健康の維持と増進」の満足度が最も高くなりました。一方，男女とも都市空間②「移動空間の安全性・利便性の確保と公共交通の利便性の向上」の満足度が最も低くなりました。

また，男性は9項目がプラス，31 項目がマイナスとなる一方，女性は 13 項目がプラス，27 項目がマイナスとなり，プラスの項目数は男性よりも女性の方が4項目多く，満足度評価平均値は男性（▲0.08）よりも女性（▲0.04）の方が 0.04 ポイント高くなりました。

【満足度評価（地域別）】



【満足度評価が高い上位3項目（地域別）】

地域	トップ1	トップ2	トップ3
西部地域	健康・福祉④	防災・防犯④	人権①
中央地域	防災・防犯④	健康・福祉④	文化・スポーツ③
南部地域	防災・防犯④	健康・福祉④	子育て①
東部地域	防災・防犯④	健康・福祉④	文化・スポーツ③

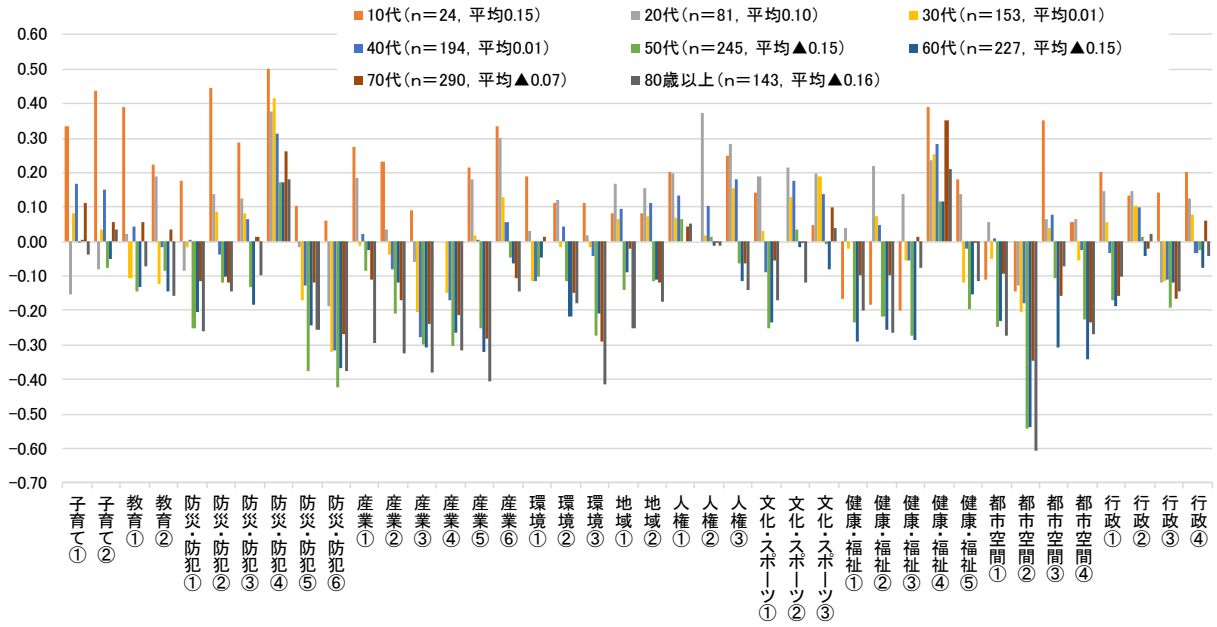
【満足度評価が低い上位3項目（地域別）】

地域	ワースト1	ワースト2	ワースト3
西部地域	都市空間②	産業⑤	産業④
中央地域	都市空間②	防災・防犯⑥	産業③
南部地域	防災・防犯⑥	都市空間②	産業③
東部地域	都市空間②	防災・防犯⑥	産業③

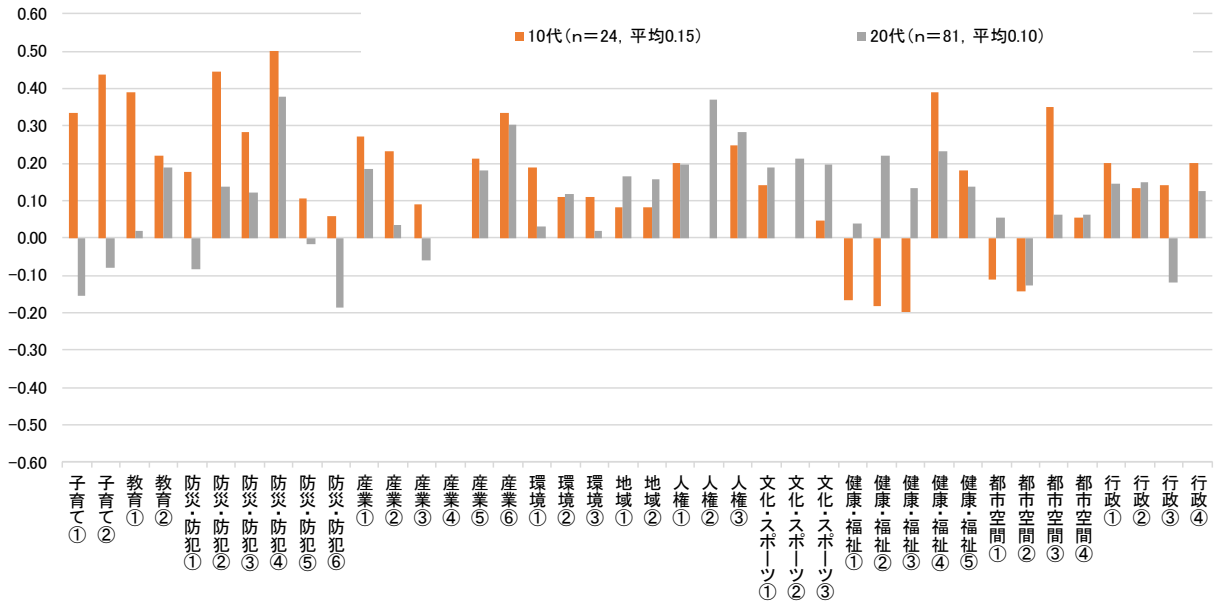
西部地域では健康・福祉④「健康の維持と増進」，中央地域，南部地域，東部地域では防災・防犯④「消防力の向上と施設などの整備の推進」の満足度が最も高くなりました。一方，西部地域，中央地域，東部地域では都市空間②「移動空間の安全性・利便性の確保と公共交通の利便性の向上」，南部地域では防災・防犯⑥「防犯環境づくりの推進」の満足度が最も低くなりました。

各地域の満足度評価は，西部地域（14 項目がプラス，26 項目がマイナス），中央地域（15 項目がプラス，25 項目がマイナス），南部地域（6項目がプラス，34 項目がマイナス），東部地域（9項目がプラス，30 項目がマイナス）となりました。中央地域は他地域よりもプラスの項目数が多く（マイナスの項目数が少ない），満足度評価平均値は▲0.02 と最も高くなり，一方，南部地域は他地域よりもプラスの項目数が少なく（マイナスの項目数が多い），満足度評価平均値は▲0.13 と最も低くなりました。

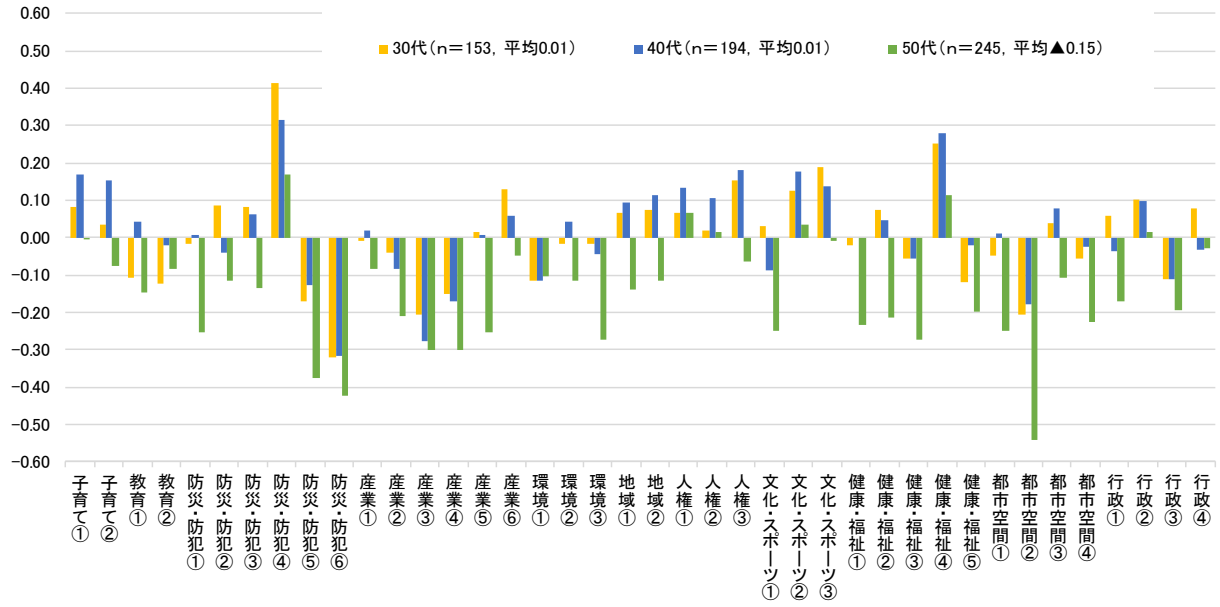
【満足度評価（年代別）－全体－】



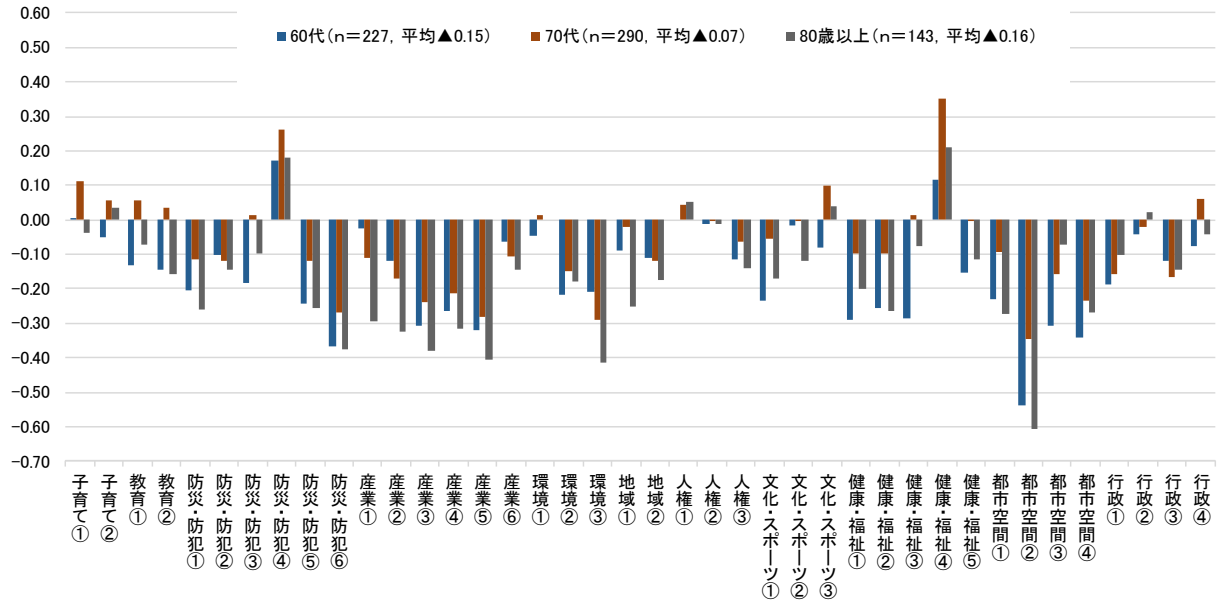
【満足度評価（年代別）－10代・20代－】



【満足度評価（年代別）－30代・40代・50代－】



【満足度評価（年代別）－60代・70代・80歳以上－】



【満足度評価が高い上位3項目（年代別）】

地域	トップ1	トップ2	トップ3
10代	防災・防犯④	防災・防犯②	子育て②
20代	防災・防犯④	人権②	産業⑥
30代	防災・防犯④	健康・福祉④	文化・スポーツ③
40代	防災・防犯④	健康・福祉④	人権③
50代	防災・防犯④	健康・福祉④	人権①
60代	防災・防犯④	健康・福祉④	子育て①
70代	健康・福祉④	防災・防犯④	子育て①
80歳以上	健康・福祉④	防災・防犯④	人権①

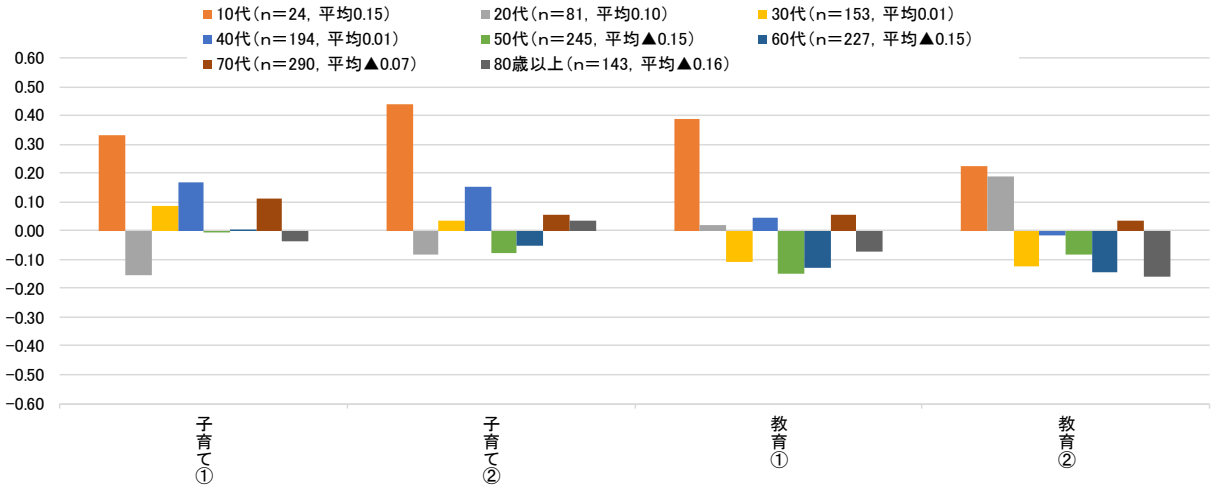
【満足度評価が低い上位3項目（年代別）】

地域	ワースト1	ワースト2	ワースト3
10代	健康・福祉③	健康・福祉②	健康・福祉①
20代	防災・防犯⑥	子育て①	都市空間②
30代	防災・防犯⑥	産業③	都市空間②
40代	防災・防犯⑥	産業③	都市空間②
50代	都市空間②	防災・防犯⑥	防災・防犯⑤
60代	都市空間②	防災・防犯⑥	都市空間④
70代	都市空間②	環境③	産業⑤
80歳以上	都市空間②	環境③	産業⑤

60 代以下は防災・防犯④「消防力の向上と施設などの整備の推進」，70 代以上は健康・福祉④「健康の維持と増進」の満足度が最も高くなりました。一方，10 代は健康・福祉③「医療体制・制度の充実」，20 代～40 代は防災・防犯⑥「防犯環境づくりの推進」，50 代以上は都市空間②「移動空間の安全性・利便性の確保と公共交通の利便性の向上」の満足度が最も低くなりました。

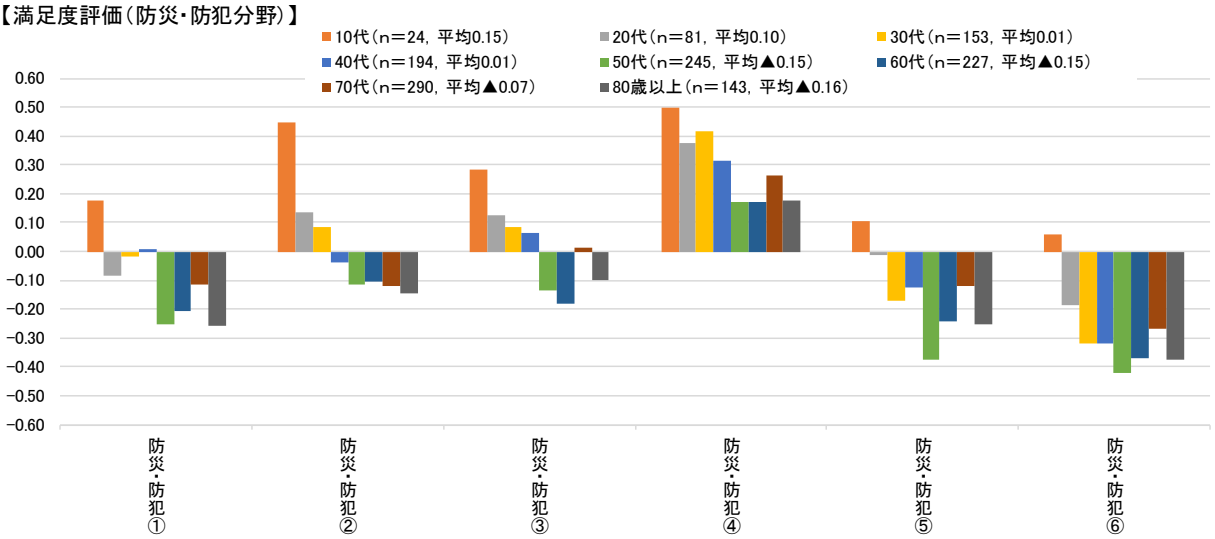
満足度がプラスの項目数と満足度平均値は 10 代（32 項目，0.15），20 代（31 項目，0.10），30 代（21 項目，0.01），40 代（22 項目，0.01），50 代（6項目，▲0.15），60 代（3項目，▲0.15），70 代（12 項目，▲0.07），80 歳以上（6項目，▲0.16）となり，年代が高くなるほどプラスの項目数は減少し，満足度平均値は低下する傾向が見られます。

【満足度評価（子育て，教育分野）】



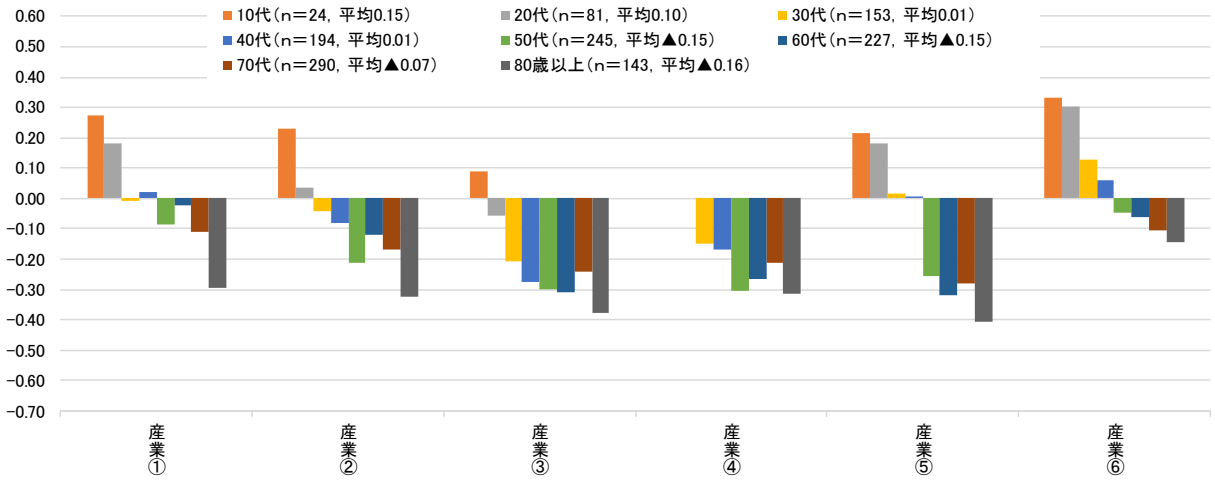
子育て分野は，各項目とも満足度がプラスの年代の方がマイナスの年代よりも多くなっています。一方，教育分野は，各項目ともマイナスの年代の方がプラスの年代よりも多くなっています。子育て分野，教育分野とも，10 代の満足度が他の年代よりも高くなっています。

【満足度評価（防災・防犯分野）】



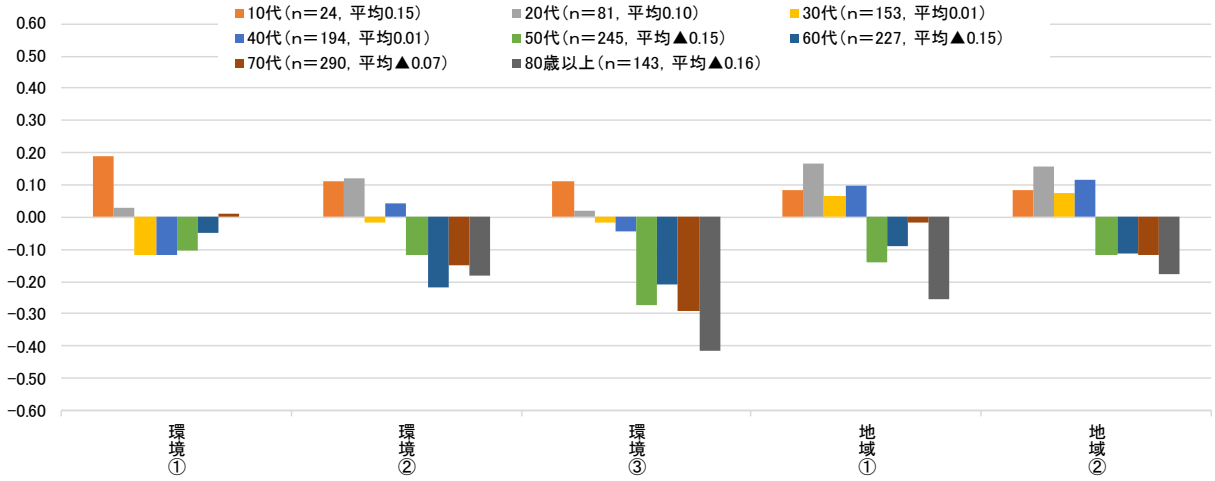
防災・防犯④「消防力の向上と施設などの整備の推進」は各年代とも満足度がプラスとなり，防災・防犯⑤「交通事故対策の推進」，防災・防犯⑥「防犯環境づくりの推進」は 20 代以上がマイナス，そのほかの項目では 50 代以上はほぼマイナスとなっています。各項目とも 10 代の満足度が最も高く，年代が高くなるほど満足度が低下する傾向がみられます。

【満足度評価（産業分野）】



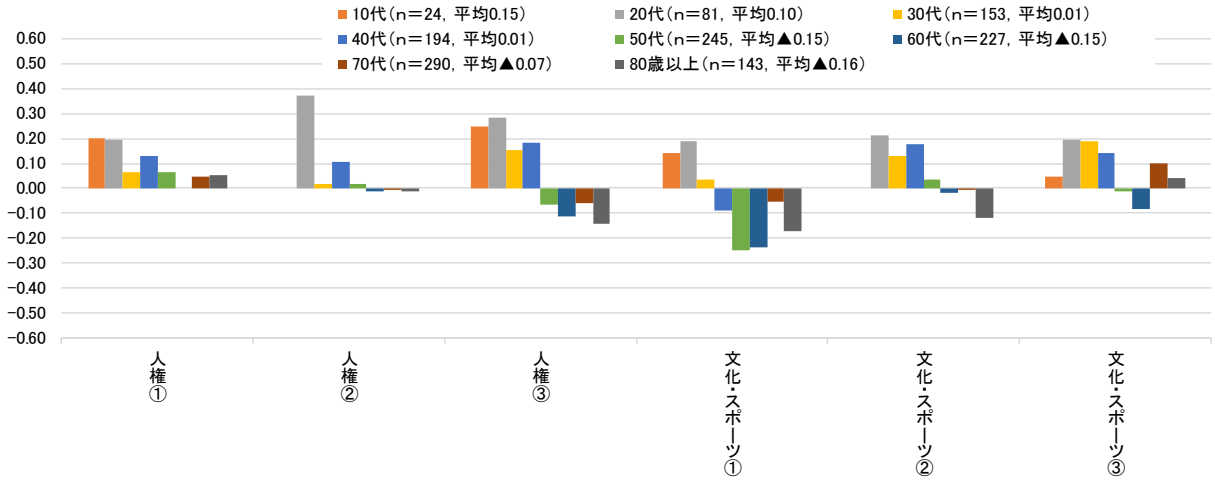
産業④「誰もが安心して働ける労働環境づくり」は各年代とも満足度がマイナスとなっています。各項目とも，30 代以上はほとんどマイナスとなっており，年代が高くなるほど満足度が低下する傾向がみられます。

【満足度評価（環境，地域分野）】



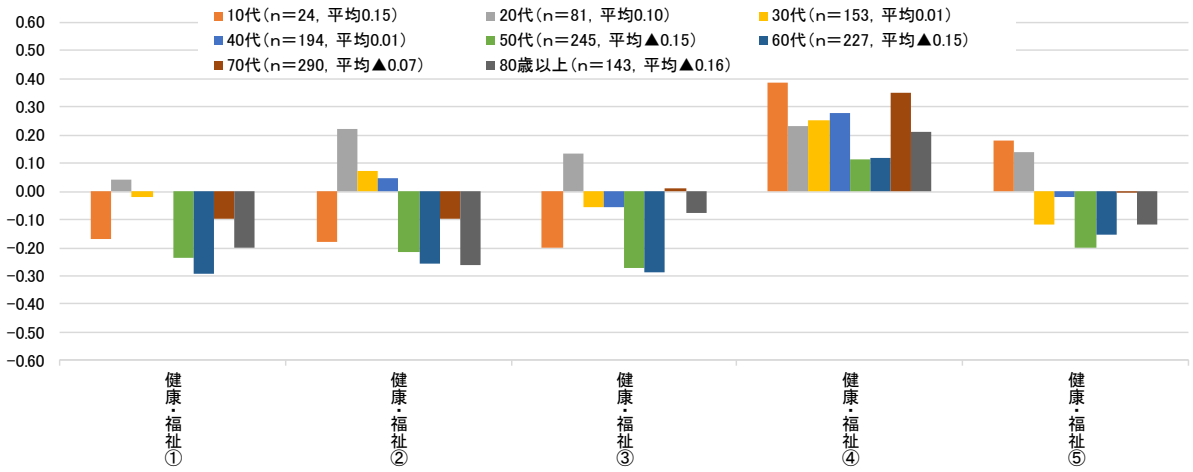
環境分野は，各項目とも 20 代以下の満足度がプラスとなり，30 代以上はほぼマイナスとなっています。地域分野は，各項目とも 40 代以下の満足度がプラスとなり，50 代以上はマイナスとなっています。環境分野，地域分野とも，年代が高くなるほど満足度が低下する傾向がみられます。

【満足度評価（人権，文化・スポーツ分野）】



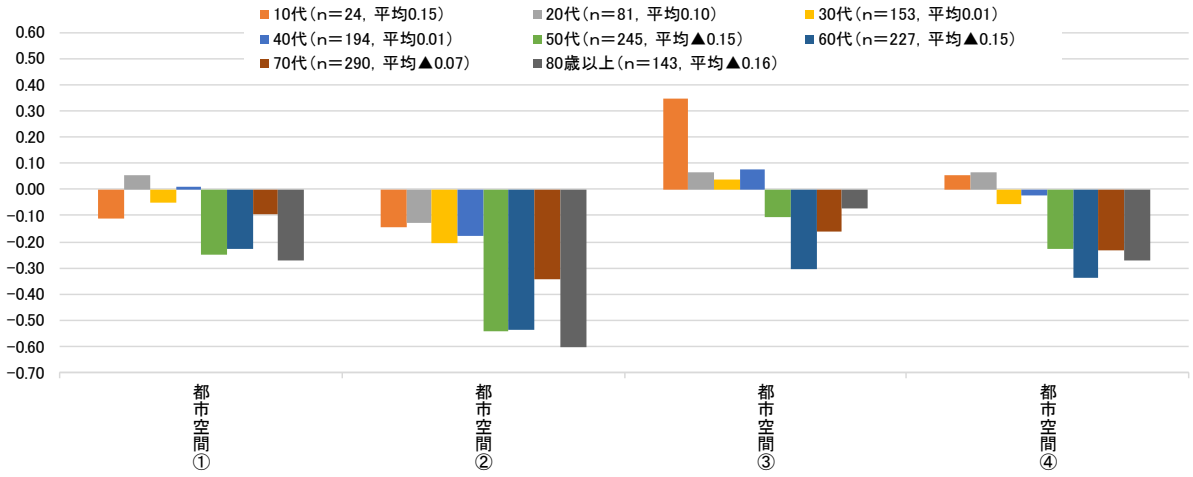
人権①「平等で平和な社会の実現」は各年代とも満足度がプラスとなり，人権③「多文化共生社会の実現」は，40 代以下の満足度がプラスとなっています。文化・スポーツ①「自ら学び，広げる文化と生涯学習活動の推進」は 30 代以下，文化・スポーツ②「文化財保護の推進」は 50 代以下，文化・スポーツ③「スポーツを通じた豊かさの醸成」は 40 代以下の満足度がプラスとなっています。人権分野，文化・スポーツ分野とも，年代が高くなるほど満足度が低下する傾向がみられます。

【満足度評価（健康・福祉分野）】



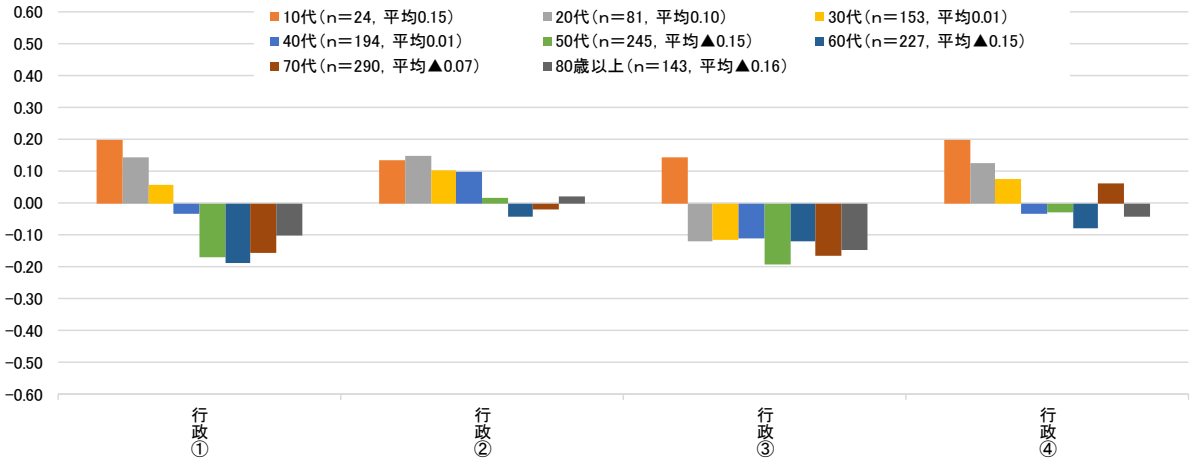
各項目とも 20 代の満足度がすべてプラスとなっています。健康・福祉④「健康の維持と増進」は各年代とも満足度がプラスとなっている一方，他の項目はマイナスの年代の方がプラスの年代よりも多くなっています。

【満足度評価（都市空間分野）】



都市空間②「移動空間の安全性・利便性の確保と公共交通の利便性の向上」は各年代とも満足度がマイナスとなっています。各項目とも 50 代以上はマイナスとなり，年代が高くなるほど満足度が低下する傾向がみられます。

【満足度評価（行政分野）】



行政①「職員力と組織力の強化」は 30 代以下，行政②「行政経営力の更なる強化」は 40 代以下，行政③「財源の確保と計画的な財政運営」は 10 代，行政④「適正な事務執行」は 30 代以下と 70 代の満足度がそれぞれプラスとなっています。各項目とも 10 代の満足度はすべてプラスとなっています。

（3）重要度評価の状況について

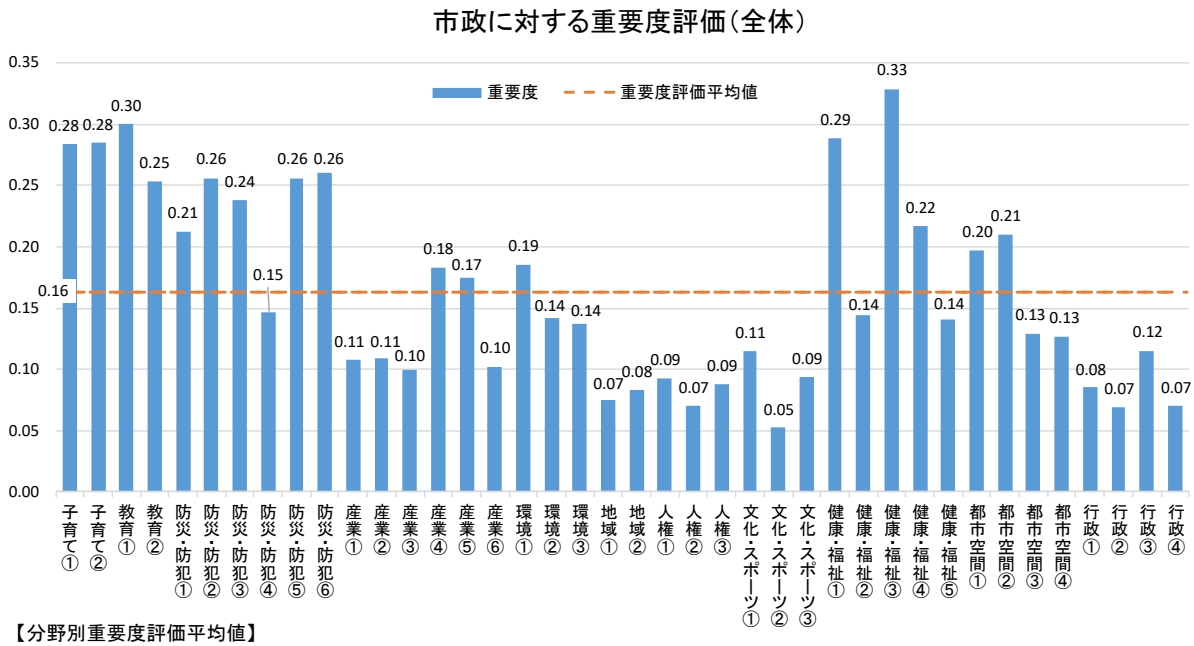
【重要度評価に関する計算式】

$$重要度＝\frac{「特に重要だと思う取組」の回答数}{全回答数(n)}$$

項目	項 目 内 容	重要度評価	順位
子育て①	安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくり	0.28	5
子育て②	子どもの保育環境と幼児教育環境の整備	0.28	4
教育①	社会を生き抜く子どもの育成	0.30	2
教育②	教育環境の充実	0.25	9
防災・防犯①	危機管理体制の充実	0.21	12
防災・防犯②	市民の危機管理意識の醸成	0.26	7
防災・防犯③	防災力・減災力の向上	0.24	10
防災・防犯④	消防力の向上と施設などの整備の推進	0.15	18
防災・防犯⑤	交通事故対策の推進	0.26	7
防災・防犯⑥	防犯環境づくりの推進	0.26	6
産業①	産業集積の基盤整備と企業誘致の推進	0.11	28
産業②	企業の高度化・高付加価値化の推進	0.11	27
産業③	消費活動の更なる活性化推進	0.10	30
産業④	誰もが安心して働ける労働環境づくり	0.18	16
産業⑤	第一次産業の活性化	0.17	17
産業⑥	地域資源の活用による集客・交流人口の増加	0.10	29
環境①	廃棄物の減量化推進とエネルギーの有効利用	0.19	15
環境②	豊かな自然環境の保全	0.14	20
環境③	安全・安心で快適な生活環境の構築	0.14	22
地域①	協働のまちづくりの推進	0.07	36
地域②	住民主体のまちづくりの推進	0.08	35
人権①	平等で平和な社会の実現	0.09	32
人権②	男女共同参画社会の実現	0.07	37
人権③	多文化共生社会の実現	0.09	33
文化・スポーツ①	自ら学び，広げる文化と生涯学習活動の推進	0.11	26
文化・スポーツ②	文化財保護の推進	0.05	40
文化・スポーツ③	スポーツを通じた豊かさの醸成	0.09	31
健康・福祉①	地域に根ざした高齢者福祉の推進	0.29	3
健康・福祉②	地域共生社会の実現に向けた障がい者福祉の推進	0.14	19
健康・福祉③	医療体制・制度の充実	0.33	1
健康・福祉④	健康の維持と増進	0.22	11
健康・福祉⑤	自立した暮らしの充実	0.14	21
都市空間①	整備優先度の高い道路の整備	0.20	14
都市空間②	移動空間の安全性・利便性の確保と公共交通の利便性の向上	0.21	13
都市空間③	都市施設の効率的な整備と維持管理の推進	0.13	23
都市空間④	効果的な規制・誘導による快適でやすらぎのあるまちづくりの促進	0.13	24
行政①	職員力と組織力の強化	0.08	34
行政②	行政経営力の更なる強化	0.07	39
行政③	財源の確保と計画的な財政運営	0.12	25
行政④	適正な事務執行	0.07	37

重要度評価平均値：0.16

全 40 項目の重要度評価平均値は 0.16 となりました。全 40 項目のうち，重要度が平均値を上回ったのは 17 項目，下回ったのは 23 項目となりました。



【分野別重要度評価平均値】

分　野	重要度評価平均値
子育て（2項目）	0.28
教育（2項目）	0.28
防災・防犯（6項目）	0.23
産業（6項目）	0.13
環境（3項目）	0.15
地域（2項目）	0.08
人権（3項目）	0.08
文化・スポーツ（3項目）	0.09
健康・福祉（5項目）	0.22
都市空間（4項目）	0.17
行政（4項目）	0.08

【重要度評価が高い上位5項目】

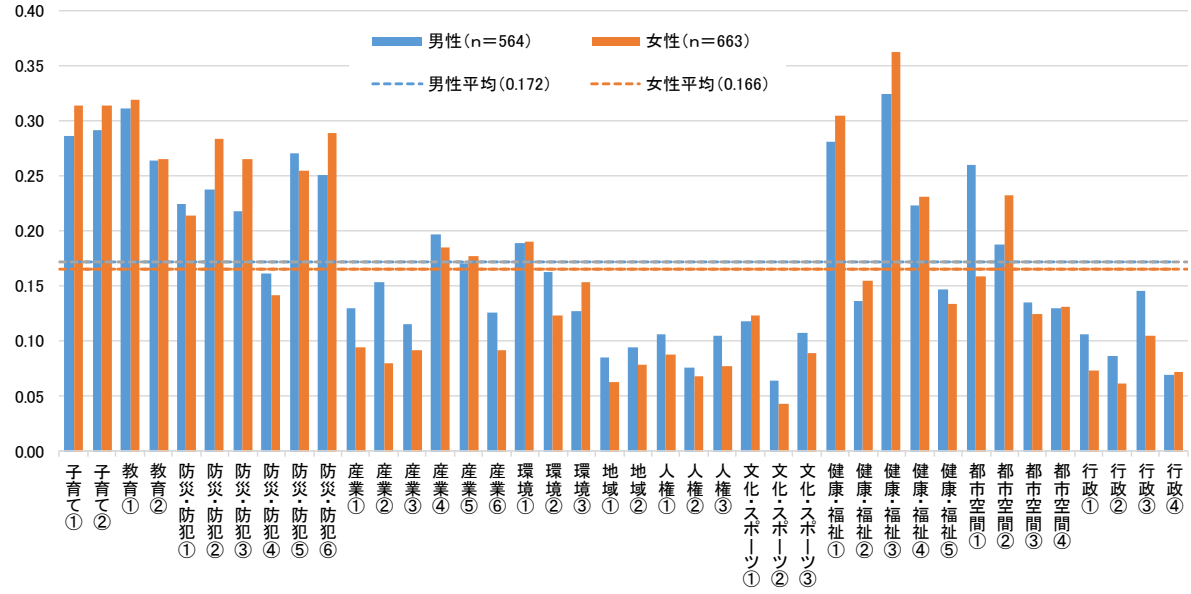
順位	項目内容	重要度評価
1	医療体制・制度の充実（健康・福祉③）	0.33
2	社会を生き抜く子どもの育成（教育①）	0.30
3	地域に根ざした高齢者福祉の推進（健康・福祉①）	0.29
4	子どもの保育環境と幼児教育環境の整備（子育て②）	0.28
5	安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくり（子育て①）	0.28

【重要度評価が低い上位5項目】

順位	項目内容	重要度評価
40	文化財保護の推進（文化・スポーツ②）	0.05
39	行政経営力の更なる強化（行政②）	0.07
38	適正な事務執行（行政④）	0.07
37	男女共同参画社会の実現（人権②）	0.07
36	協働のまちづくりの推進（地域①）	0.07

分野別でみると，子育て分野の重要度が最も高く，行政分野の重要度が最も低くなりました。5分野（子育て，教育，防災・防犯，健康・福祉，都市空間）の重要度が全体の重要度評価平均値（0.16）を上回り，他の6分野は下回りました。項目別でみると，健康・福祉③「医療体制・制度の充実」の重要度が最も高く，文化・スポーツ②「文化財保護の推進」が最も低くなりました。子育て，教育の各分野では全ての項目が全体の重要度評価平均値を上回った一方，地域，人権，文化・スポーツ，行政の各分野では全ての項目が下回りました。

【重要度評価（性別）－全体－】



【重要度評価が高い上位3項目（性別）】

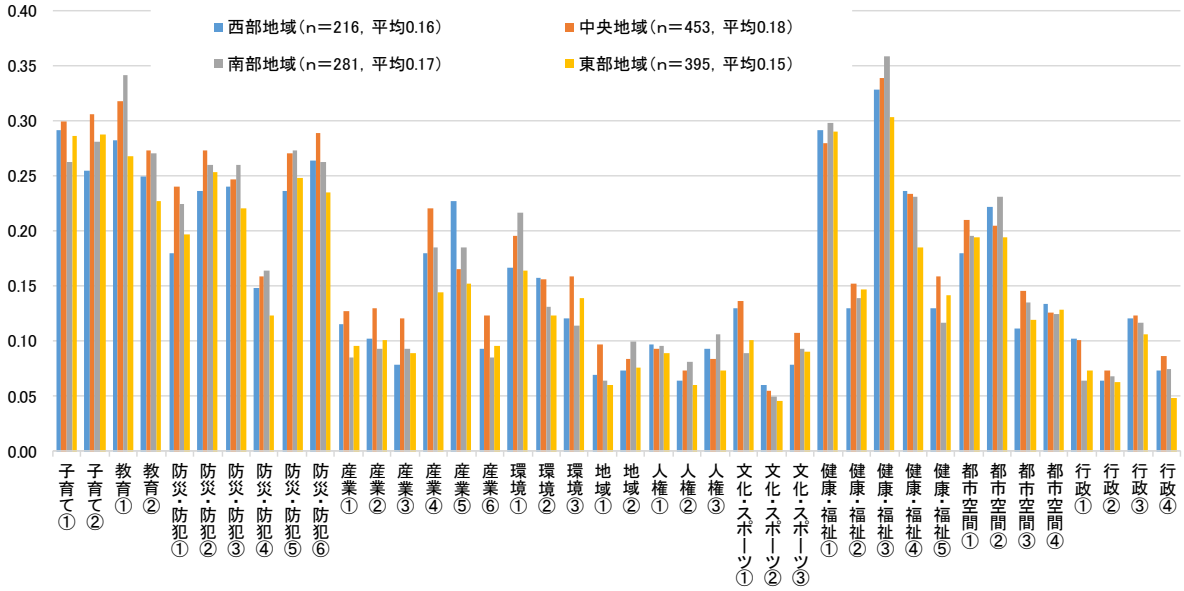
性別	トップ1	トップ2	トップ3
男性	健康・福祉③	教育①	子育て②
女性	健康・福祉③	教育①	子育て②

【重要度評価が低い上位3項目（性別）】

性別	ワースト1	ワースト2	ワースト3
男性	文化・スポーツ②	行政④	人権②
女性	文化・スポーツ②	行政②	地域①

男女とも，健康・福祉③「医療体制・制度の充実」の重要度が最も高くなり，次いで教育①「社会を生き抜く子どもの育成」，子育て②「子どもの保育環境と幼児教育環境の整備」となりました。一方，男女とも，文化・スポーツ②「文化財保護の推進」の重要度が最も低くなり，次いで，男性は行政④「適正な事務執行」，人権②「男女共同参画社会の実現」の順に低く，女性は行政②「行政経営力の更なる強化」，地域①「協働のまちづくりの推進」の順に低くなりました。重要度評価平均値は男性（0.172）の方が女性（0.166）よりも高くなりました。

【重要度評価（地域別）】



【重要度評価が高い上位3項目（地域別）】

地域	トップ1	トップ2	トップ3
西部地域	健康・福祉③	健康・福祉①	子育て①
中央地域	健康・福祉③	教育①	子育て②
南部地域	健康・福祉③	教育①	健康・福祉①
東部地域	健康・福祉③	健康・福祉①	子育て②

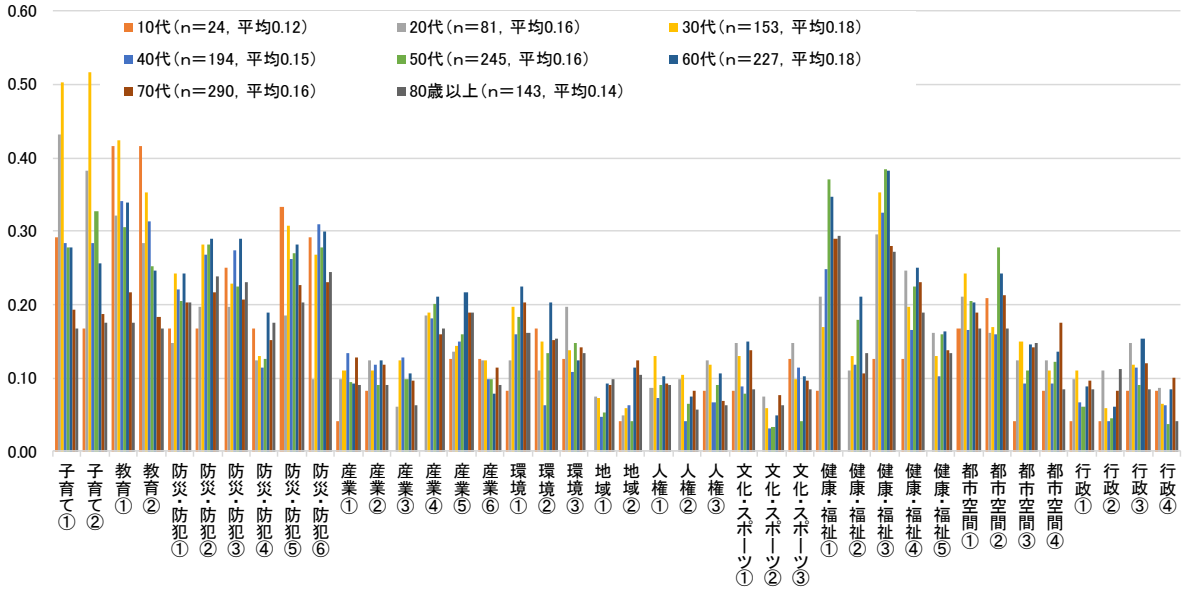
【重要度評価が低い上位3項目（地域別）】

地域	ワースト1	ワースト2	ワースト3
西部地域	文化・スポーツ②	行政②	人権②
中央地域	文化・スポーツ②	行政②	人権②
南部地域	文化・スポーツ②	地域①	行政①
東部地域	文化・スポーツ②	行政④	地域①

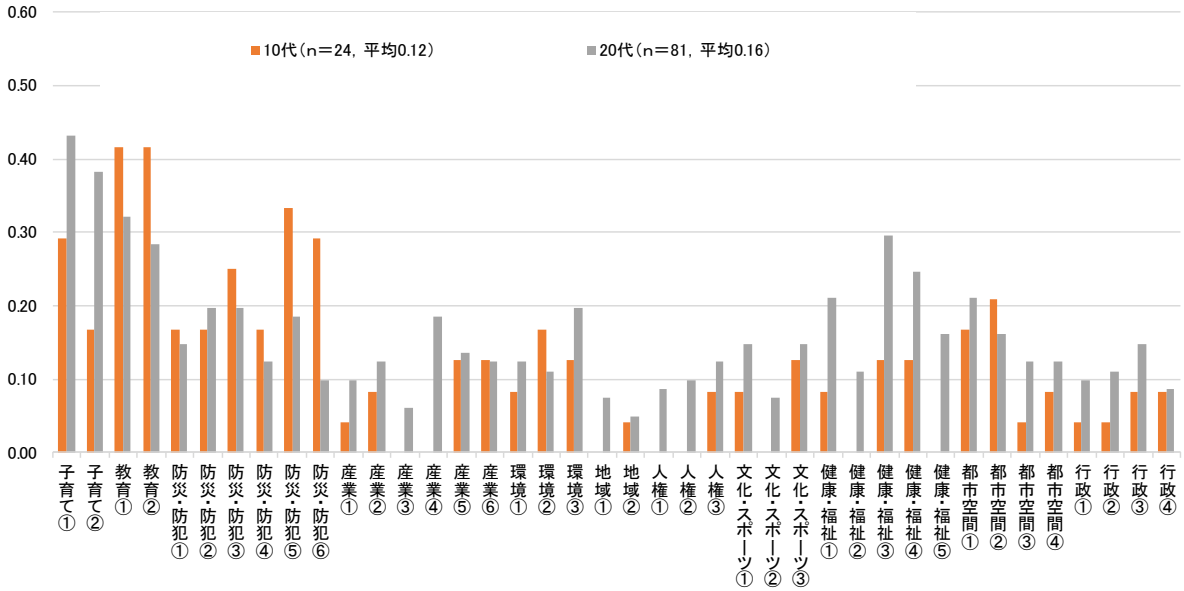
西部地域，中央地域，南部地域，東部地域とも，健康・福祉③「医療体制・制度の充実」の重要度が最も高く，次いで，西部地域と東部地域は健康・福祉①「地域に根ざした高齢者福祉の推進」，中央地域と南部地域は教育①「社会を生き抜く子どもの育成」が高くなりました。一方，各地域とも文化・スポーツ②「文化財保護の推進」の重要度が最も低く，次いで，西部地域と中央地域は行政②「行政経営力の更なる強化」，南部地域は地域①「協働のまちづくりの推進」，東部地域は行政④「適正な事務執行」が低くなりました。

各地域の重要度評価平均値は，西部地域（0.16），中央地域（0.18），南部地域（0.17），東部地域（0.15）となりました。

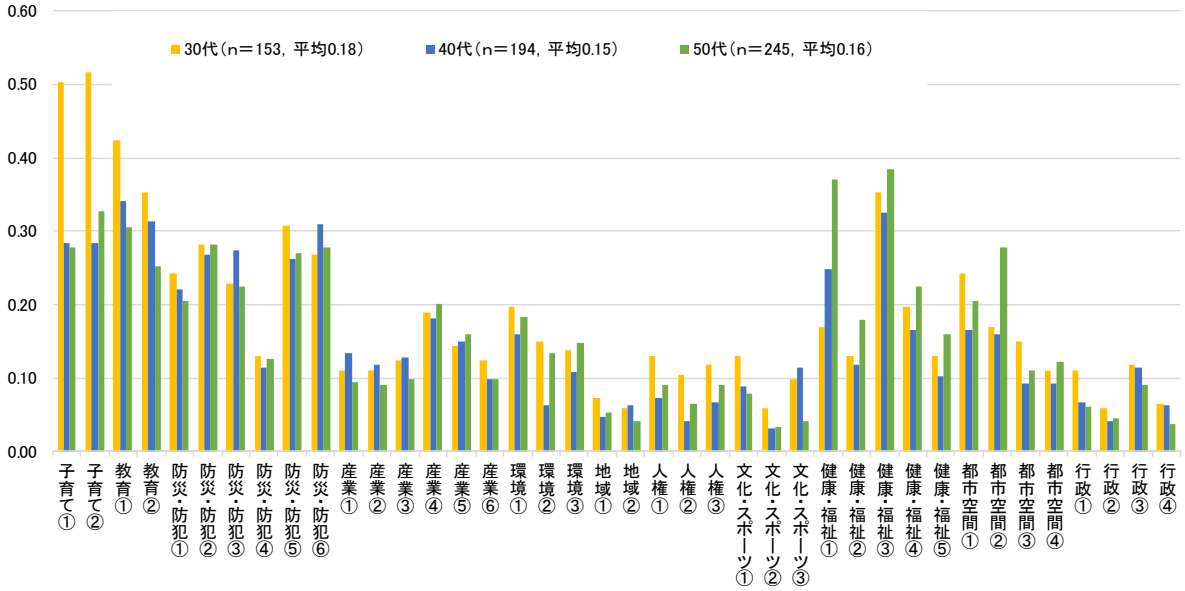
【重要度評価（年代別）－全体－】



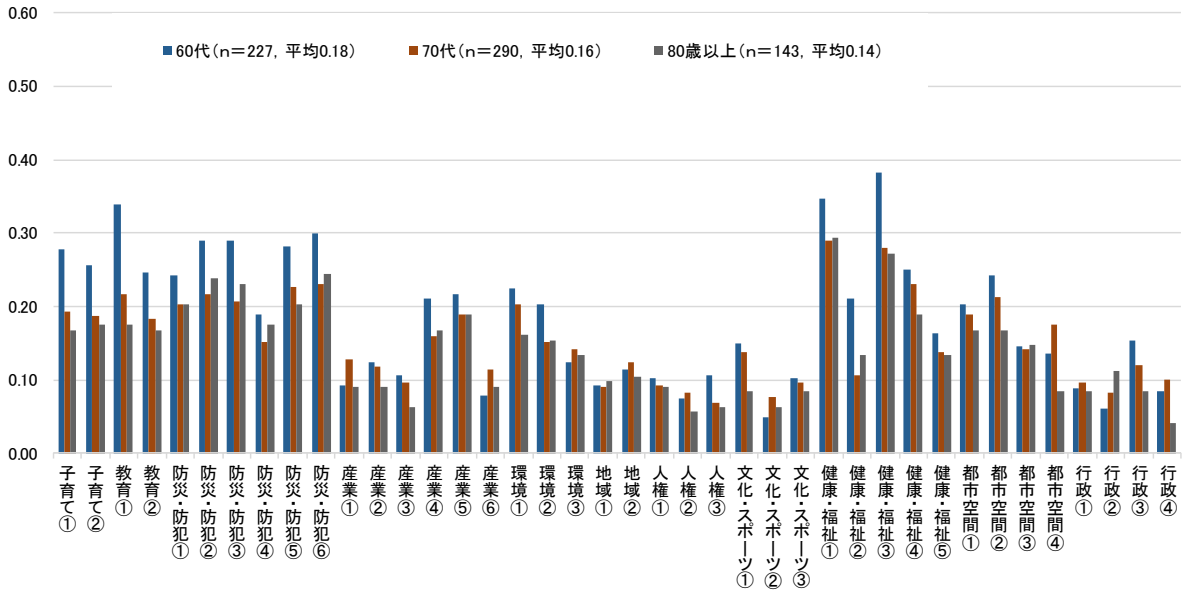
【重要度評価（年代別）－10代・20代－】



【重要度評価（年代別）－30代・40代・50代－】



【重要度評価（年代別）－60代・70代・80歳以上－】



【重要度評価が高い上位3項目（年代別）】

地域	トップ1	トップ2	トップ3
10代	教育②	教育①	防災・防犯⑤
20代	子育て①	子育て②	教育①
30代	子育て②	子育て①	教育①
40代	教育①	健康・福祉③	教育②
50代	健康・福祉③	健康・福祉①	子育て②
60代	健康・福祉③	健康・福祉①	教育①
70代	健康・福祉①	健康・福祉③	防災・防犯⑥
80代以上	健康・福祉①	健康・福祉③	防災・防犯⑥

【重要度評価が低い上位3項目（年代別）】

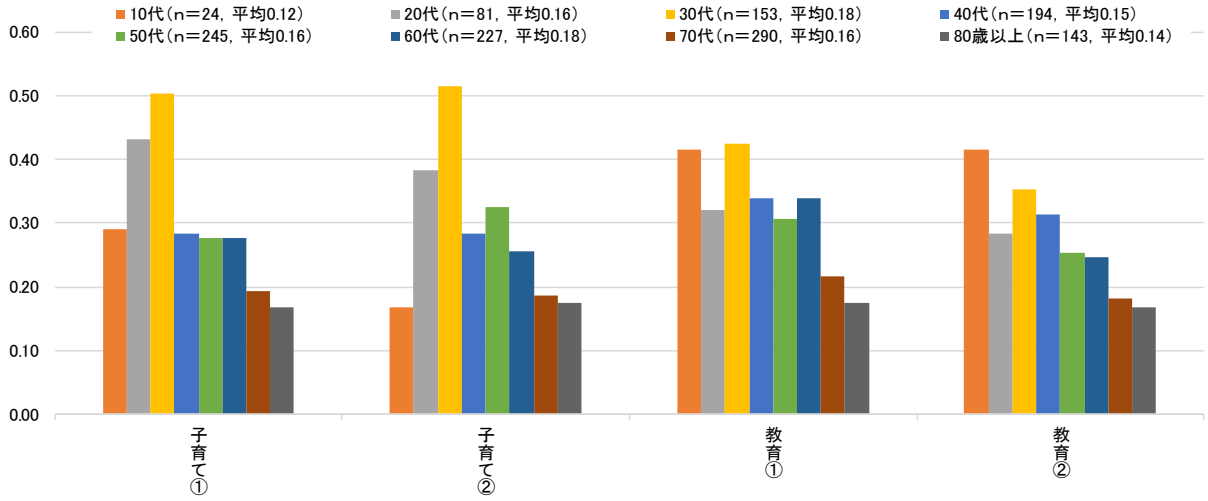
地域	ワースト1	ワースト2	ワースト3
10代	産業③, 産業④, 文化・スポーツ②, 地域①, 人権①, 人権②, 健康・福祉②, 健康・福祉⑤		
20代	地域②	産業③	文化・スポーツ②
30代	文化・スポーツ②	行政②	地域②
40代	文化・スポーツ②	行政②	人権②
50代	文化・スポーツ②	行政④	文化・スポーツ③
60代	文化・スポーツ②	行政②	人権②
70代	人権③	文化・スポーツ②	人権②
80代以上	行政④	人権②	産業③

※10 代は重要度が 0 となった項目が 8 つとなった。

重要度が最も高い項目は，10 代が教育②「教育環境の充実」，20 代が子育て①「安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくり」，30 代が子育て②「子どもの保育環境と幼児教育環境の整備」，40 代が教育①「社会を生き抜く子どもの育成」，50 代と 60 代が健康・福祉③「医療体制・制度の充実」，70 代以上が健康・福祉①「地域に根ざした高齢者福祉の推進」と年代によって異なる結果となりました。一方，重要度が最も低い項目は，10 代が産業③「消費活動の更なる活性化推進」，産業④「誰もが安心して働ける労働環境づくり」，文化・スポーツ②「文化財保護の推進」，地域①「協働のまちづくりの推進」，人権①「平等で平和な社会の実現」，人権②「男女共同参画社会の実現」，健康・福祉②「地域共生社会の実現に向けた障がい者福祉の推進」，健康・福祉⑤「自立した暮らしの充実」の8項目について重要度が 0 となりました。そのほか，20 代が地域②「住民主体のまちづくりの推進」，30 代～60 代が文化・スポーツ②「文化財保護の推進」，70 代が人権③「多文化共生社会の実現」，80 歳以上が行政④「適正な事務執行」と年代によって異なる結果となりました。

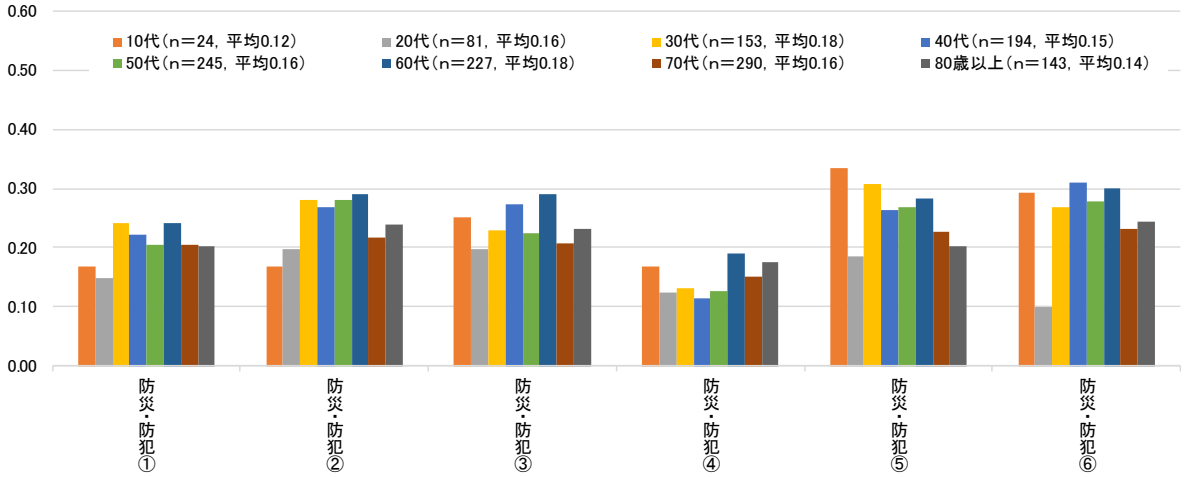
重要度評価平均値は，10 代(0.12)，20 代(0.16)，30 代(0.18)，40 代(0.15)，50 代(0.16)，60 代(0.18)，70 代(0.16)，80 歳以上(0.14)となっています。

【重要度評価（子育て，教育分野）】



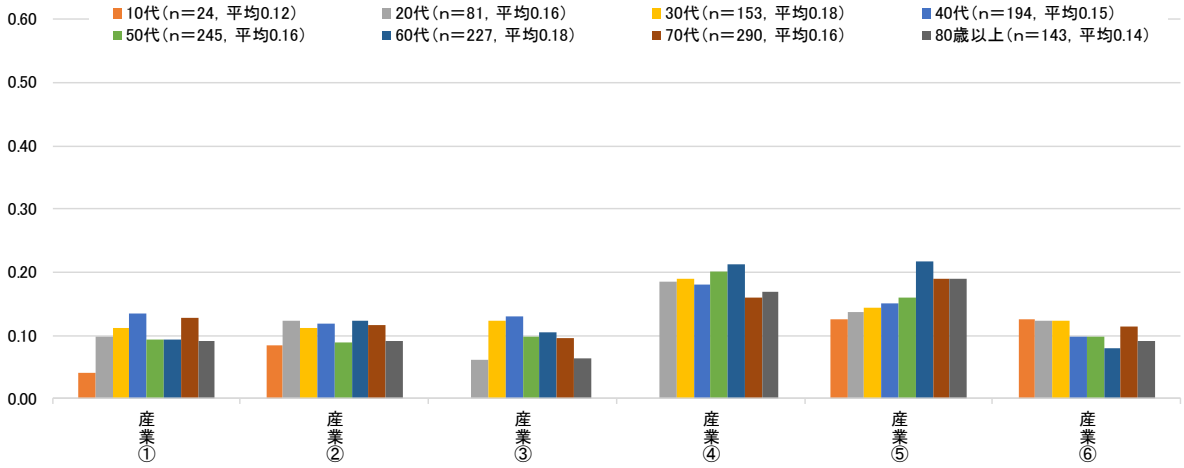
子育て分野は，各項目とも 20 代と 30 代の重要度が高く，40 代以上は年代が高くなるほど重要度が低下する傾向が見られます。一方，教育分野は，各項目とも 10 代の重要度が高く，30 代以上は年代が高くなるほど重要度が低下する傾向が見られます。

【重要度評価（防災・防犯分野）】



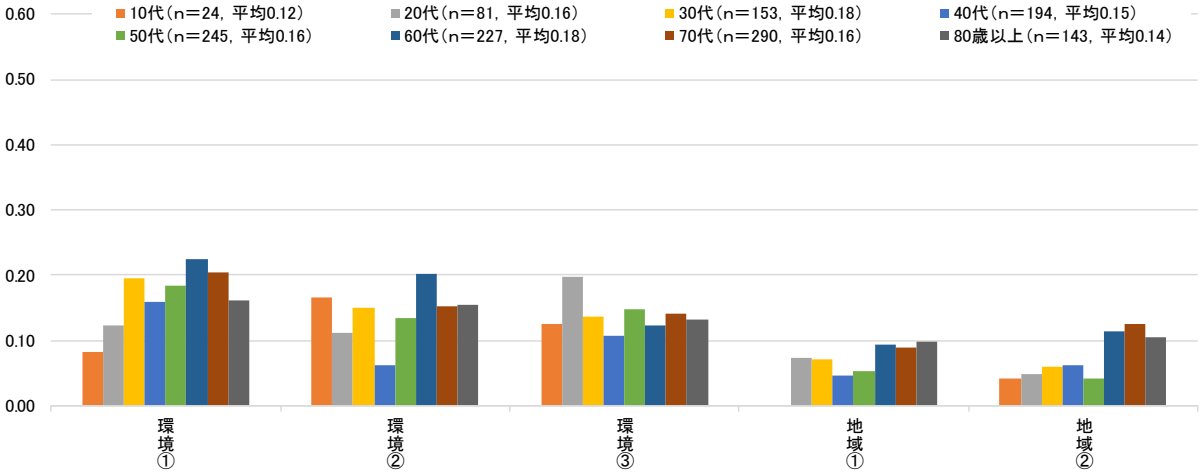
防災・防犯④「消防力の向上と施設などの整備の推進」は 60 代以上の重要度が他の年代よりも高く，そのほかの項目は，30 代～60 代の重要度が他の年代よりも高くなっています。

【重要度評価（産業分野）】



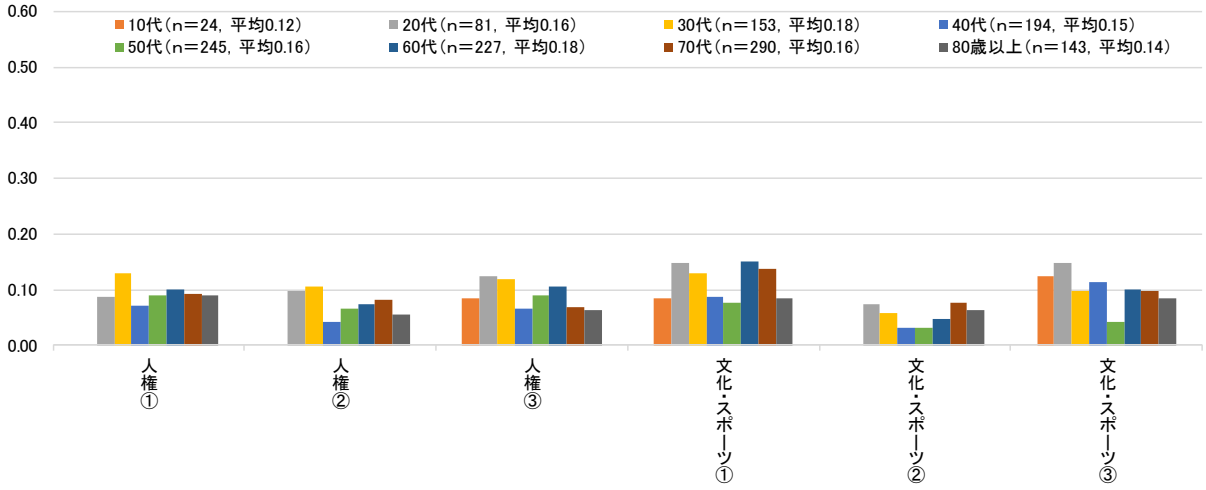
産業③「消費活動の更なる活性化推進」，産業⑥「地域資源の活用による集客・交流人口の増加」は年代が高くなるほど重要度が低下する傾向がみられます。一方，産業⑤「第一次産業の活性化」は年代が高くなるほど重要度が上昇する傾向が見られます。

【重要度評価（環境，地域分野）】



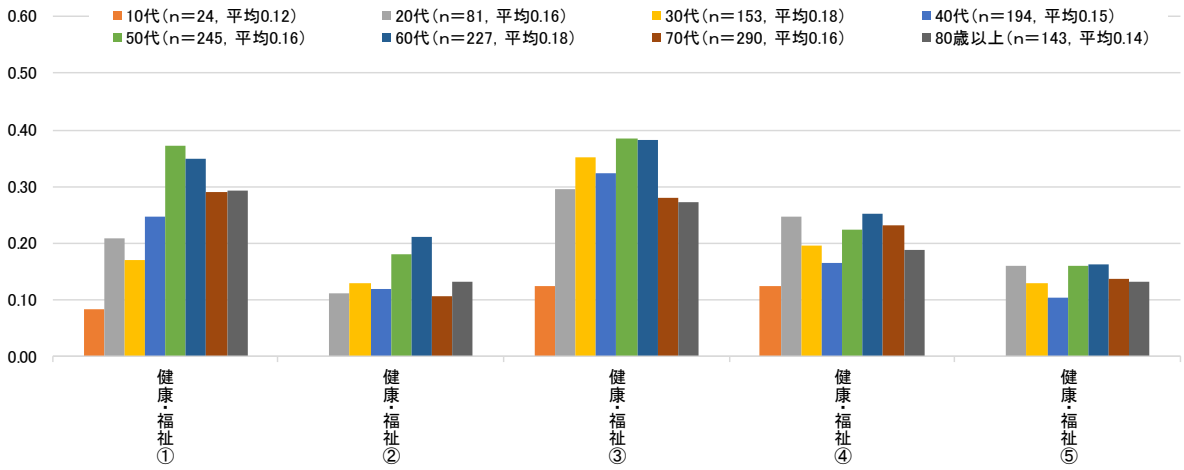
環境①「廃棄物の減量化推進とエネルギーの有効利用」は年代が高くなるほど重要度が上昇する傾向がみられます。地域分野は各項目とも，50 代以下より 60 代以上の重要度が高くなっています。

【重要度評価（人権，文化・スポーツ分野）】



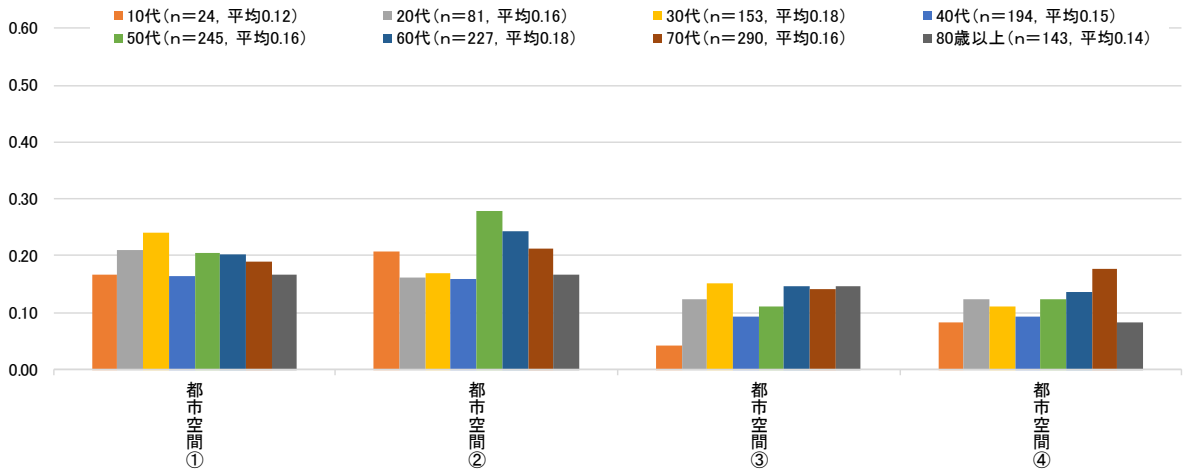
人権分野，各項目とも 20 代と 30 代の重要度が他の年代よりも高くなっています。文化・スポーツ分野は，各項目とも 20 代の重要度が他の年代よりも高くなっています。

【重要度評価（健康・福祉分野）】



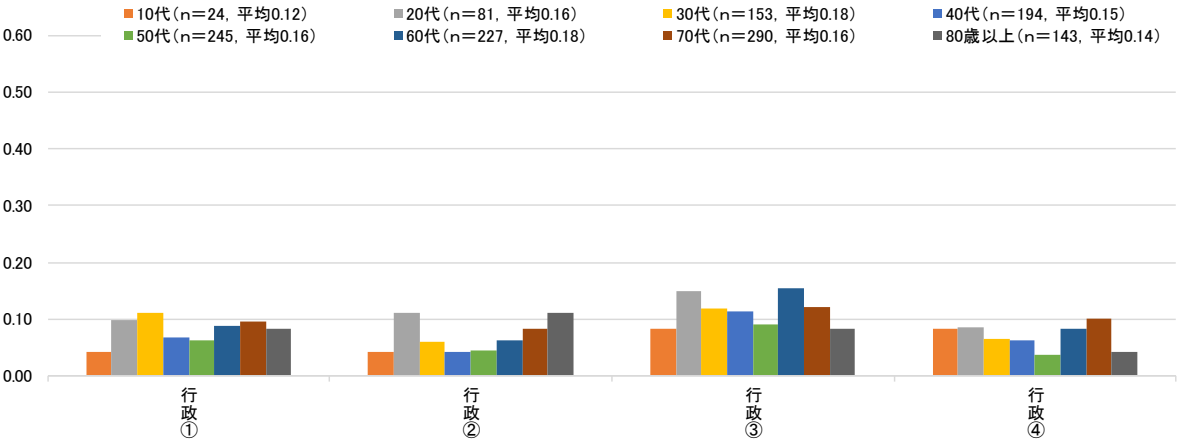
各項目とも 50 代と 60 代の重要度が他の年代よりも高くなっている一方，10 代の重要度が最も低くなっています。

【重要度評価（都市空間分野）】



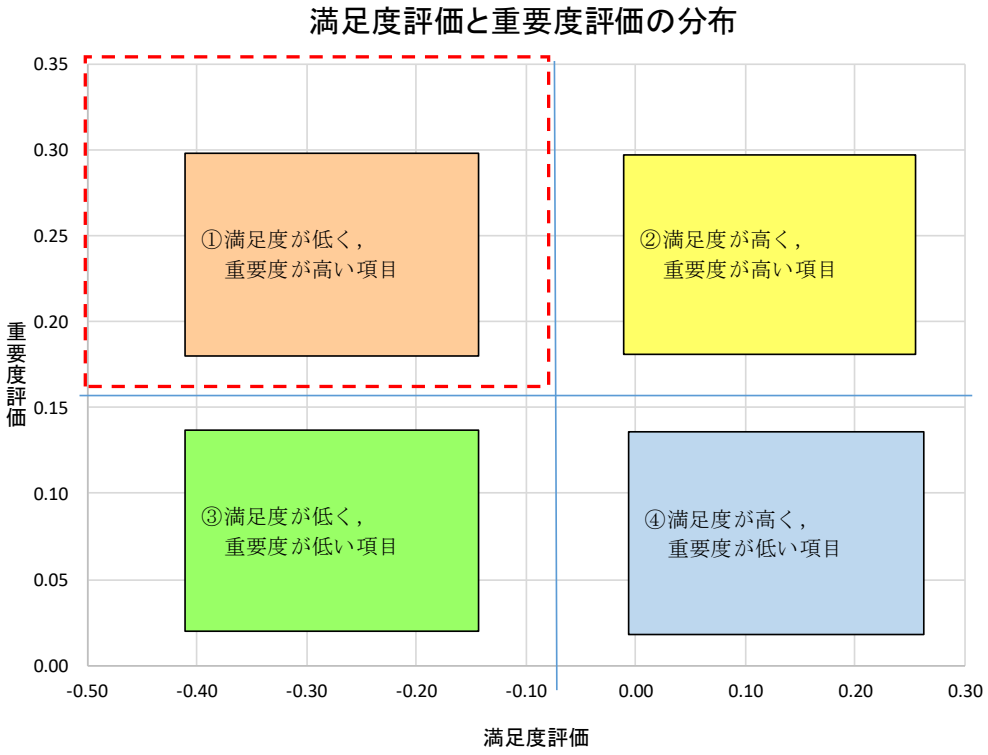
都市空間①「整備優先度の高い道路の整備」は 20 代と 30 代，都市空間②「移動空間の安全性・利便性の確保と公共交通の利便性の向上」は 50 代と 60 代，都市空間③「都市施設の効率的な整備と維持管理の推進」は 60 代以上，都市空間④「効果的な規制・誘導による快適でやすらぎのあるまちづくりの促進」は 70 代の重要度が他の年代よりも高くなっています。

【重要度評価（行政分野）】



行政①「職員力と組織力の強化」は 20 代と 30 代の重要度が他の年代よりも高くなっています。行政②「行政経営力の更なる強化」は 40 代以上で年代が高くなるほど重要度が上昇する傾向がみられます。

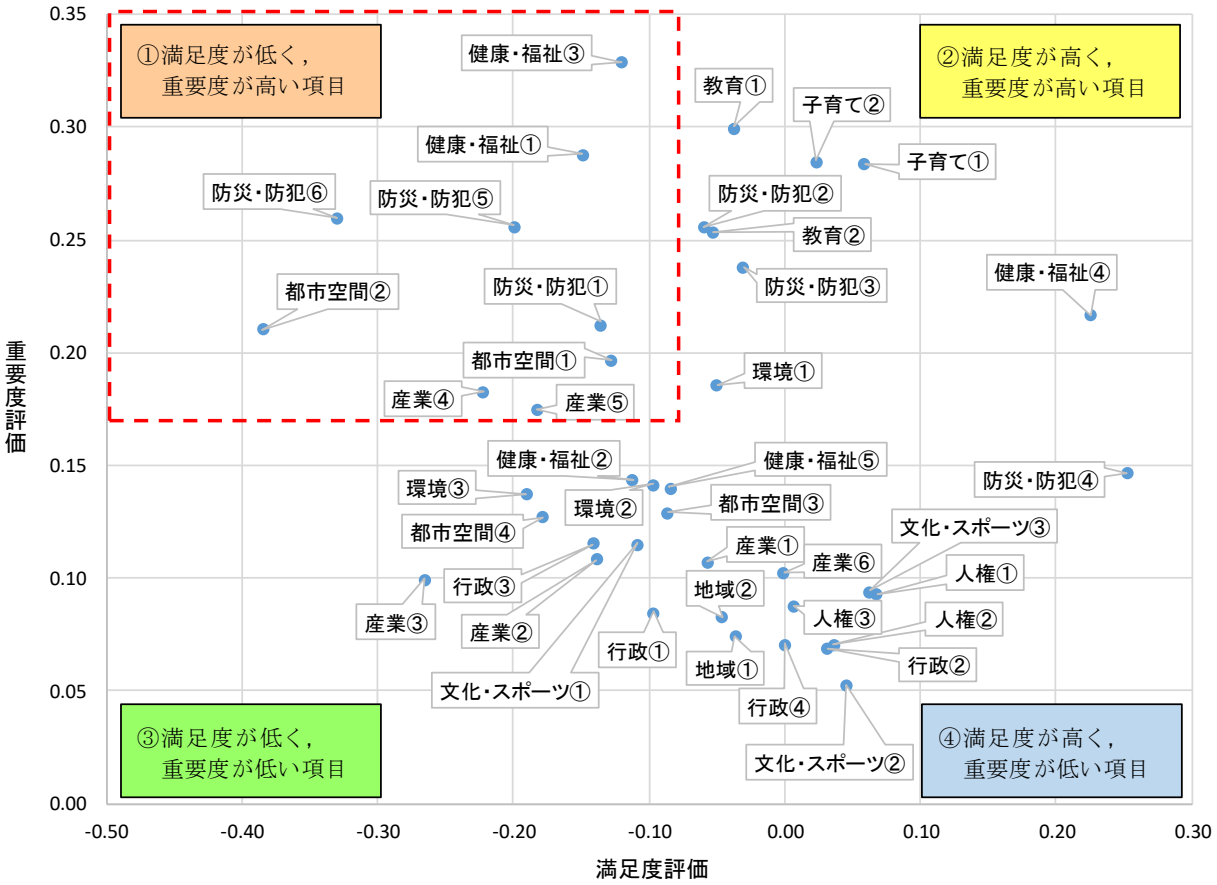
（4）満足度及び重要度評価のグラフ化について



満足度及び重要度における評価得点に基づき，縦軸を重要度評価，横軸を満足度評価とした散布図を作成しました。

散布図では，満足度及び重要度の評価得点について，それぞれの平均点を基準（青色の実線）としています。基準により分類された4つの範囲において，「①満足度が低く，重要度が高い項目」（赤色の点線）に分類される項目は，市民が改善を求める意識が強い取組と考えることができます。

満足度評価と重要度評価の分布

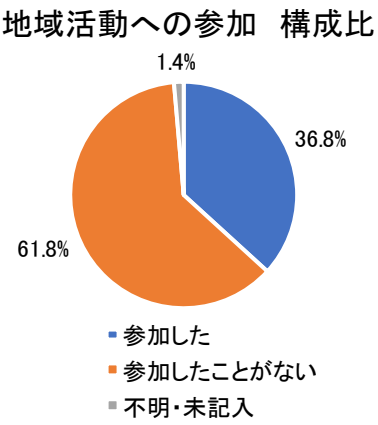


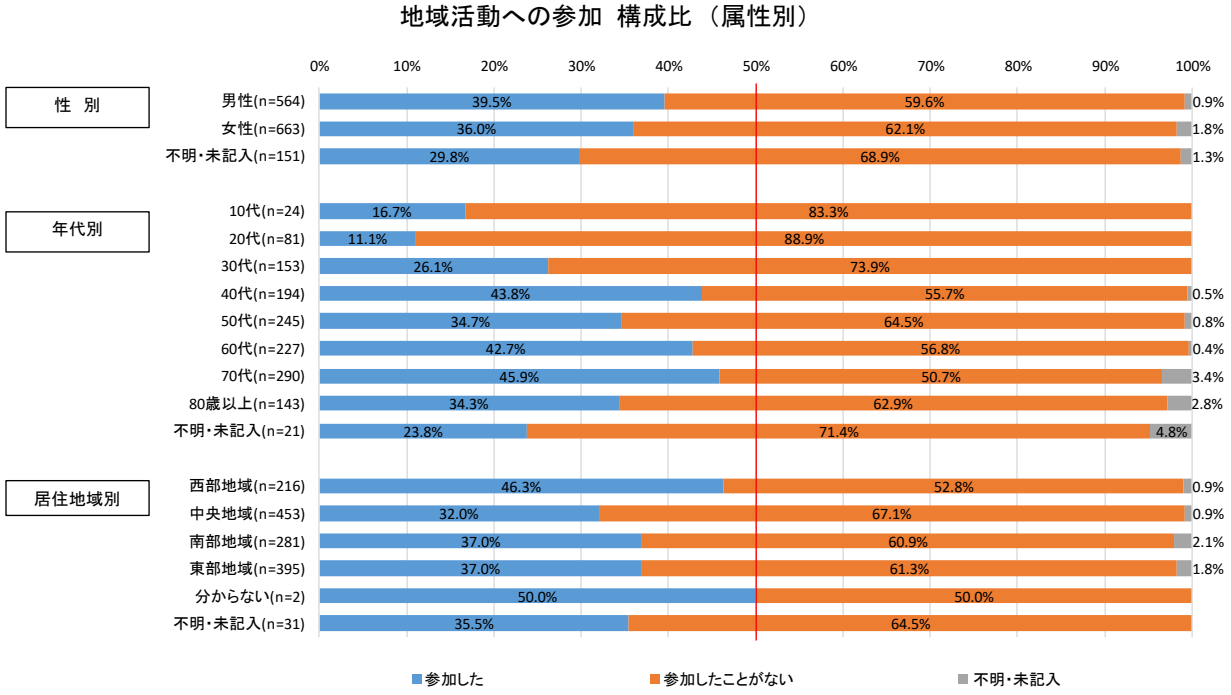
範囲	項目	項 目 内 容
①満足度が低く，重要度が高い項目（9項目）	防災・防犯①	危機管理体制の充実
	防災・防犯⑤	交通事故対策の推進
	防災・防犯⑥	防犯環境づくりの推進
	産業④	誰もが安心して働ける労働環境づくり
	産業⑤	第一次産業の活性化
	健康・福祉①	地域に根ざした高齢者福祉の推進
	健康・福祉③	医療体制・制度の充実
	都市空間①	整備優先度の高い道路の整備
	都市空間②	移動空間の安全性・利便性の確保と公共交通の利便性の向上
②満足度が高く，重要度が高い項目（8項目）	子育て①	安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくり
	子育て②	子どもの保育環境と幼児教育環境の整備
	教育①	社会を生き抜く子どもの育成
	教育②	教育環境の充実
	防災・防犯②	市民の危機管理意識の醸成
	防災・防犯③	防災力・減災力の向上
	環境①	廃棄物の減量化推進とエネルギーの有効利用
	健康・福祉④	健康の維持と増進
③満足度が低く，重要度が低い項目（11項目）	産業②	企業の高度化・高付加価値化の推進
	産業③	消費活動の更なる活性化推進
	環境②	豊かな自然環境の保全
	環境③	安全・安心で快適な生活環境の構築
	文化・スポーツ①	自ら学び，広げる文化と生涯学習活動の推進
	健康・福祉②	地域共生社会の実現に向けた障がい者福祉の推進
	健康・福祉⑤	自立した暮らしの充実
	都市空間③	都市施設の効率的な整備と維持管理の推進
	都市空間④	効果的な規制・誘導による快適でやすらぎのあるまちづくりの促進
	行政①	職員力と組織力の強化
	行政③	財源の確保と計画的な財政運営
④満足度が高く，重要度が低い項目（12項目）	防災・防犯④	消防力の向上と施設などの整備の推進
	産業①	産業集積の基盤整備と企業誘致の推進
	産業⑥	地域資源の活用による集客・交流人口の増加
	地域①	協働のまちづくりの推進
	地域②	住民主体のまちづくりの推進
	人権①	平等で平和な社会の実現
	人権②	男女共同参画社会の実現
	人権③	多文化共生社会の実現
	文化・スポーツ②	文化財保護の推進
	文化・スポーツ③	スポーツを通じた豊かさの醸成
	行政②	行政経営力の更なる強化
	行政④	適正な事務執行

【問5】. 地域活動への過去3年以内の参加経験について

【地域活動への参加経験】

カテゴリ	回答数（人）	構成比（%）
参加した	507	36.8
参加したことがない	852	61.8
不明・未記入	19	1.4
合計	1378	100



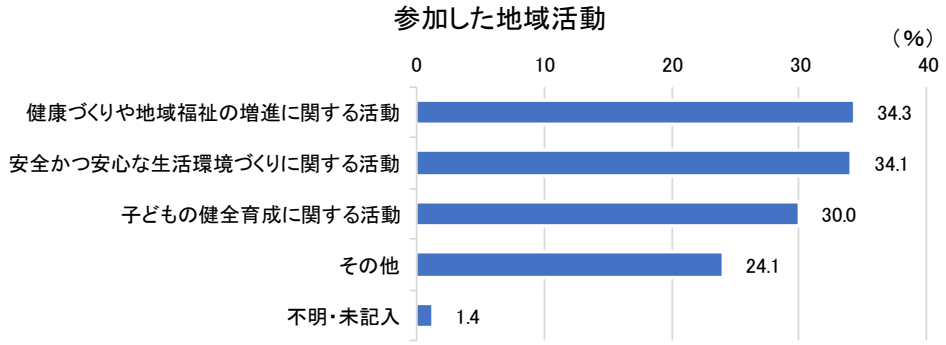


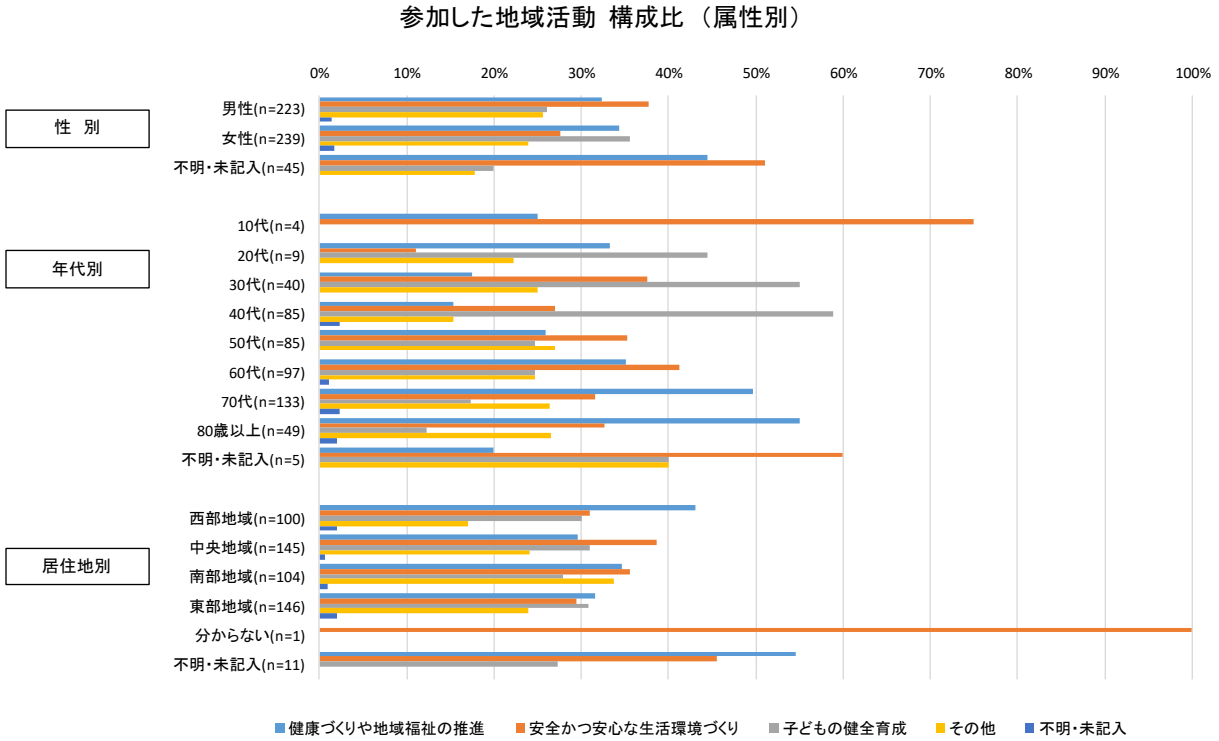
地域活動に参加したことがある人の割合は，男性の方が女性よりも高くなっている。年代別でみると，20 代以下は 20%以下と 30 代以上より低くなっている。地域別でみると，西部地域が他の地域よりも高くなっている。

【問5－1】. 参加した地域活動について

【参加した地域活動】　（複数回答）

カテゴリ	回答数（人）	構成比（%）
健康づくりや地域福祉の増進に関する活動	174	34.3
安全かつ安心な生活環境づくりに関する活動	173	34.1
子どもの健全育成に関する活動	152	30.0
その他	122	24.1
不明・未記入	7	1.4
合計	507	



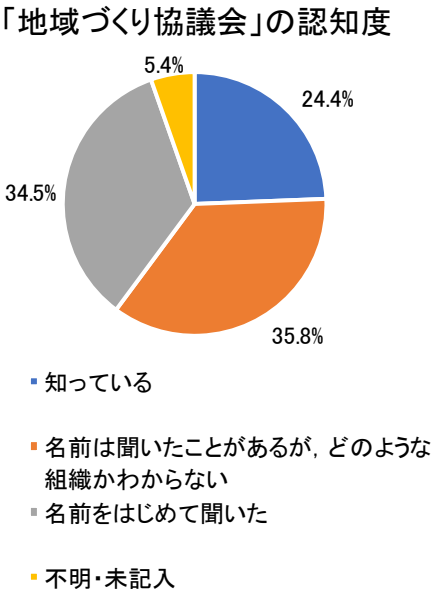


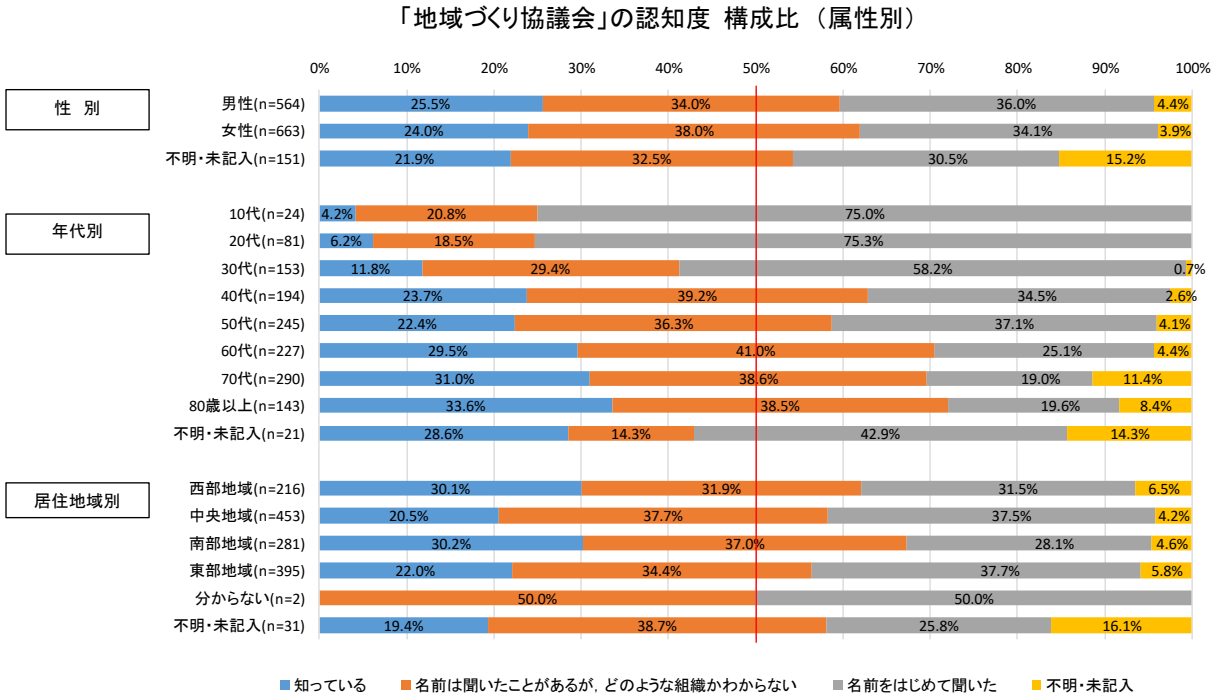
【問5】で「参加した」と回答した人の参加した地域活動の割合は，「健康づくりや地域福祉の増進に関する活動」，「安全かつ安心な生活環境づくりに関する活動」，「子どもの健全育成に関する活動」とも 30%以上となっています。男性は「安全かつ安心な生活環境づくりに関する活動」が女性よりも高く，女性は「子どもの健全育成に関する活動」が男性よりも高くなっています。回答数が 10 件以上の年代別にみると，30 代と 40 代は「子どもの健全育成に関する活動」，50 代と 60 代は「安全かつ安心な生活環境づくりに関する活動」，70 代以上は「健康づくりや地域福祉の増進に関する活動」が高くなっています。

【問6】.「地域づくり協議会」の認知度について

【「地域づくり協議会」の認知度】

カテゴリ	回答数（人）	構成比（%）
知っている	336	24.4
名前は聞いたことがあるが，どのような組織かわからない	493	35.8
名前をはじめて聞いた	475	34.5
不明・未記入	74	5.4
合計	1378	100.0



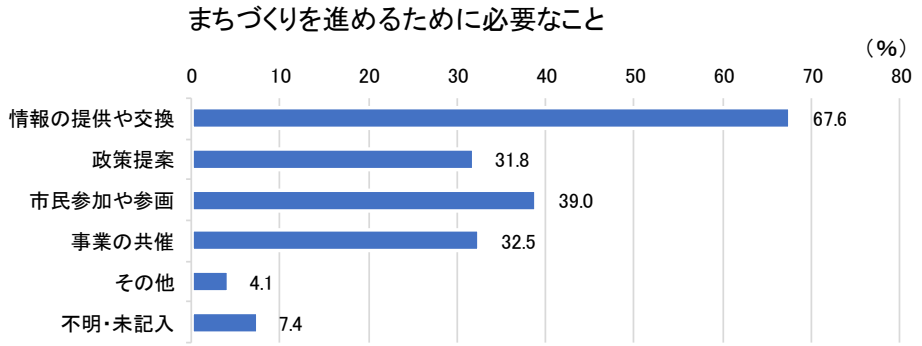


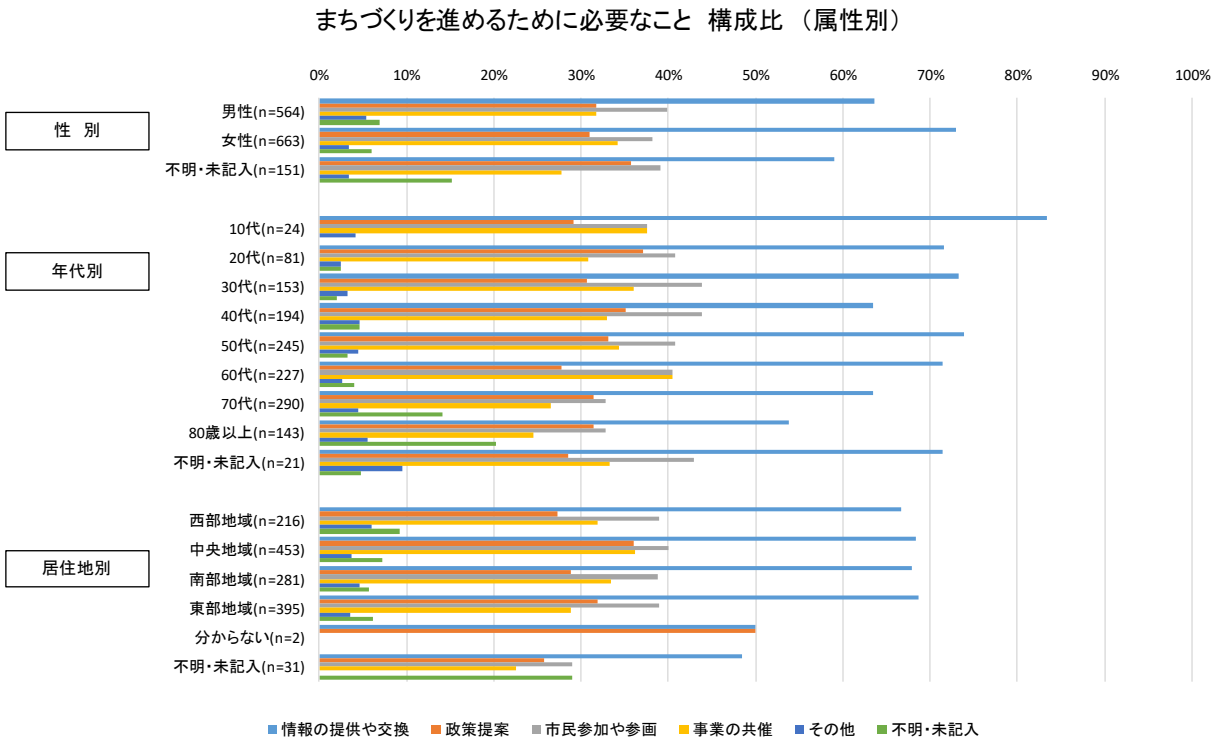
地域づくり協議会について，「名前は聞いたことがあるが，どのような組織かわからない」が 35.8%と最も高く，「知っている」は 24.4%となりました。「知っている」と回答した人の割合は，男性の方が女性よりやや高く，年代が高くなるほど，上昇する傾向がみられます。

【問7】. 地域と行政が協働でまちづくりを進めるために必要なことについて

【まちづくりを進めるために必要なこと】　（複数回答）

カテゴリ	回答数（人）	構成比（%）
情報の提供や交換	932	67.6
政策提案	438	31.8
市民参加や参画	537	39.0
事業の共催	448	32.5
その他	57	4.1
不明・未記入	102	7.4
合計	1378	



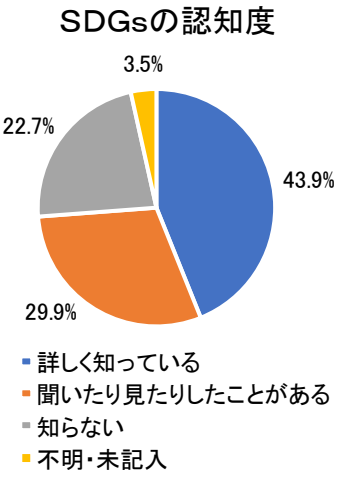


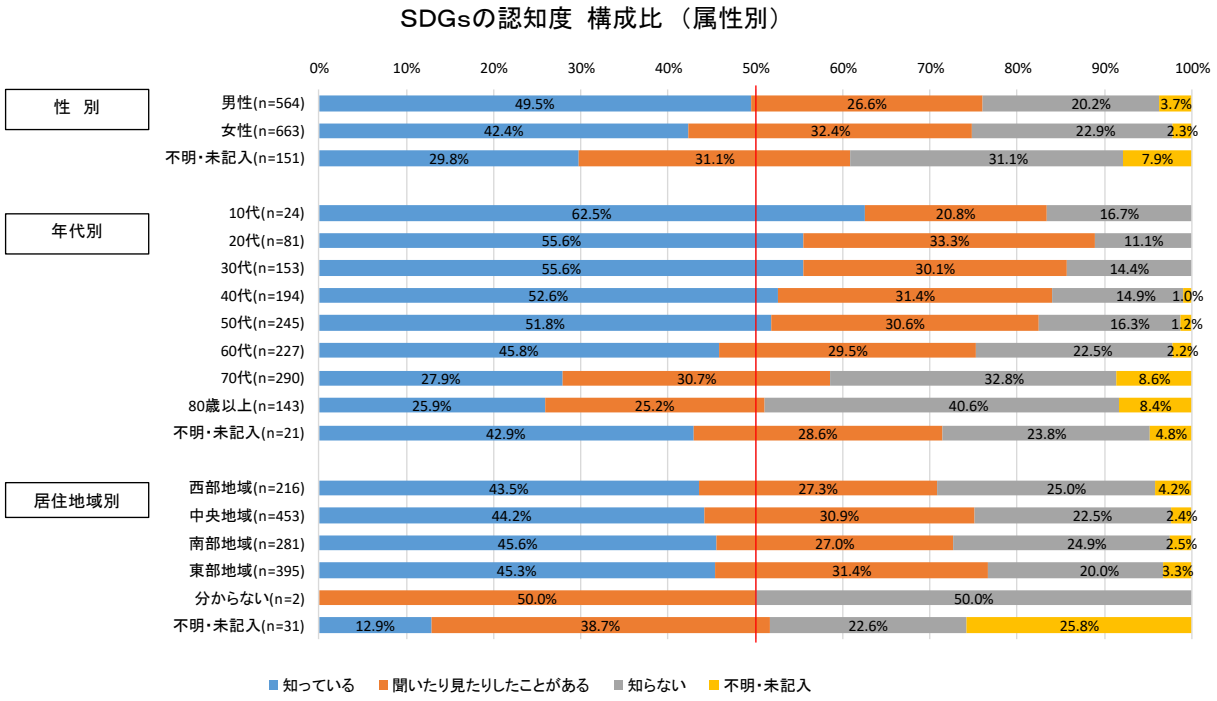
「情報の提供や交換」が 67.6%と最も高くなりました。男性は「市民参加や参画」が女性よりも高く，女性は「情報の提供や交換」が男性よりも高くなっています。年代別にみると，「情報の提供や交換」は年代が高くなるほど低下する傾向がみられます。

【問8】. SDGsの認知度について

【SDG s の認知度】

カテゴリ	回答数（人）	構成比（%）
詳しく知っている	605	43.9
聞いたり見たりしたことがある	412	29.9
知らない	313	22.7
不明・未記入	48	3.5
合計	1378	100





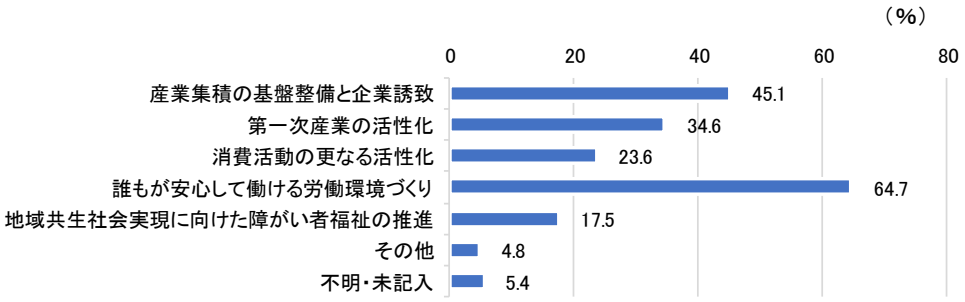
SDGsの認知度は，「詳しく知っている」が 43.9%と最も高く，「聞いたり見たりしたことがある」を合わせると73.8%となります。「詳しく知っている」と回答した人の割合は，男性の方が女性よりも高く，年代が高くなるほど低下する傾向がみられます。

【問9】. 人口減少への抑止策について

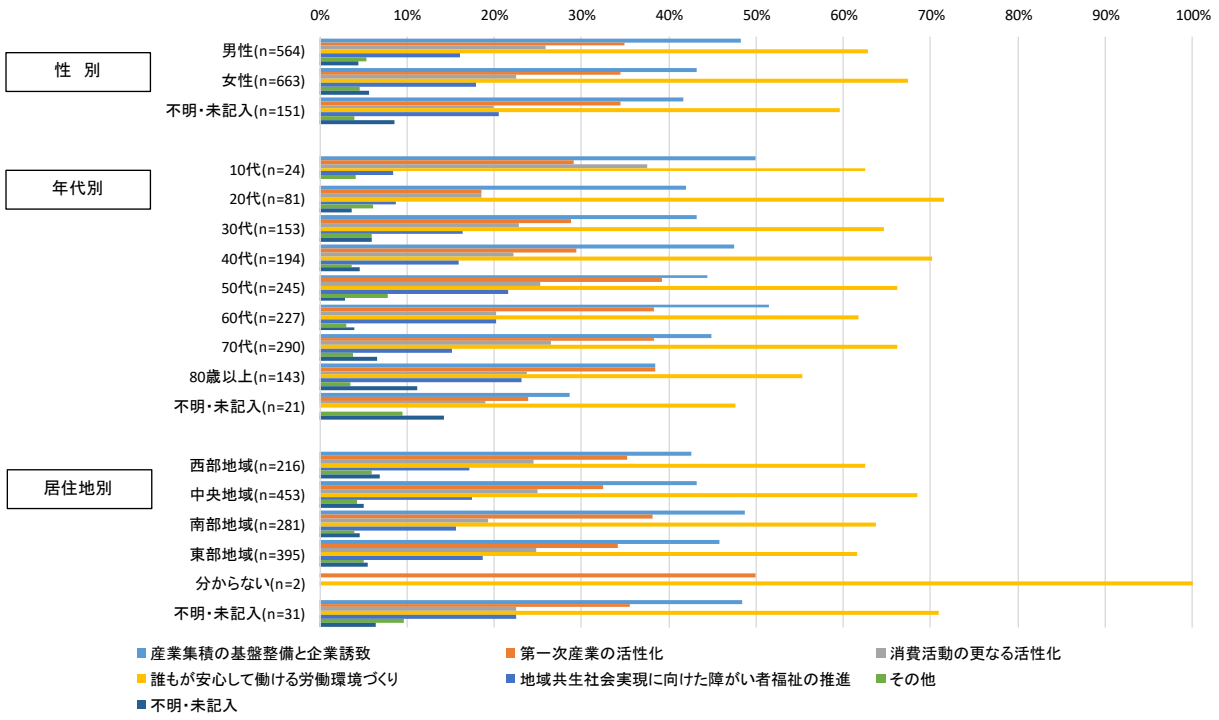
［競争力ある産業の創造と雇用の創出］　（複数回答）

カテゴリ	回答数（人）	構成比（%）
産業集積の基盤整備と企業誘致	621	45.1
第一次産業の活性化	477	34.6
消費活動の更なる活性化	325	23.6
誰もが安心して働ける労働環境づくり	891	64.7
地域共生社会実現に向けた障がい者福祉の推進	241	17.5
その他	66	4.8
不明・未記入	75	5.4
合計	1378	

［競争力ある産業の創造と雇用の創出］



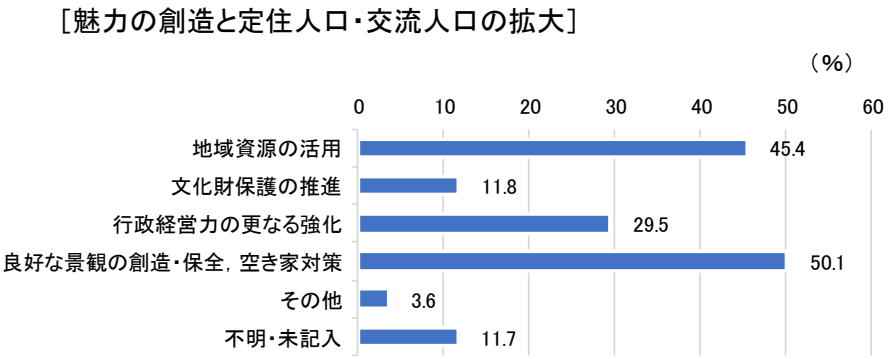
［競争力ある産業の創造と雇用の創出］構成比（属性別）

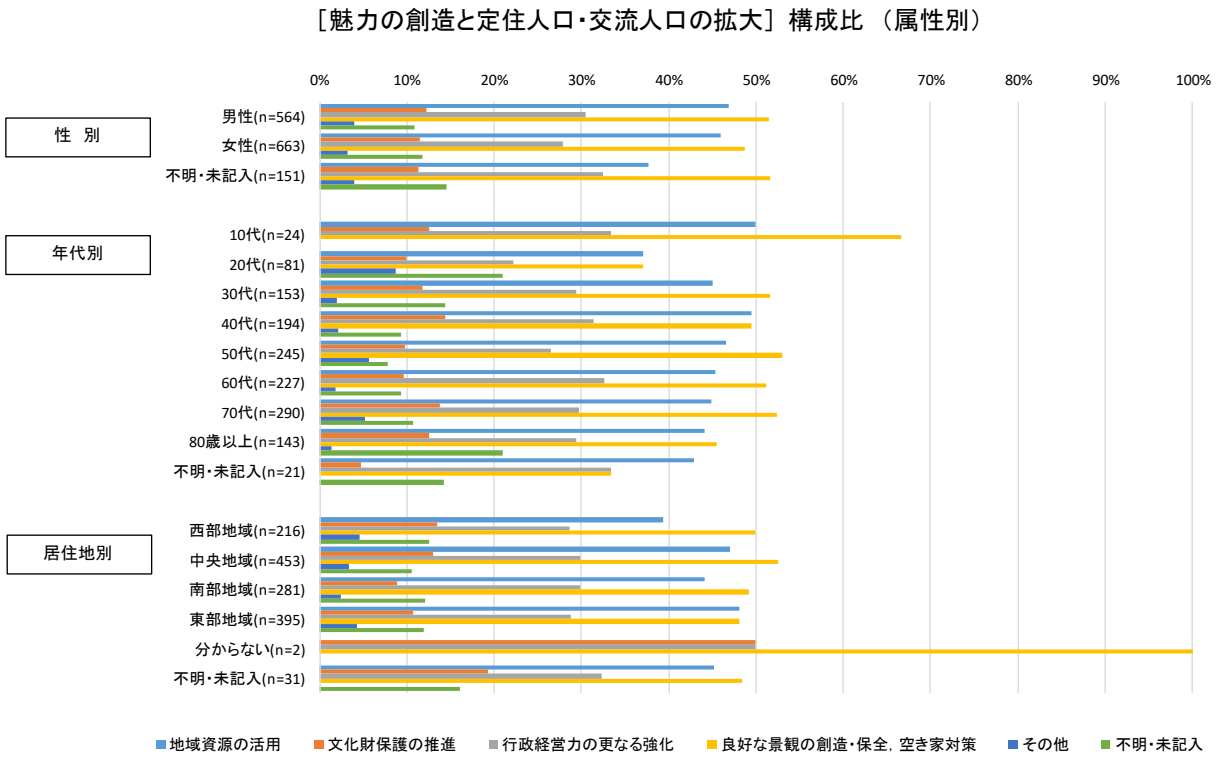


「誰もが安心して働ける労働環境づくり」と回答した人の割合が 64.7%と最も高く，次いで「産業集積の基盤整備と企業誘致」(45.1%)が高くなりました。男性は「産業集積の基盤整備と企業誘致」が女性よりも高く，女性は「誰もが安心して働ける労働環境づくり」が男性よりも高くなっています。年代別にみると，「誰もが安心して働ける労働環境づくり」は 20 代と 40 代で高く，「第一次産業の活性化」は 50 代以上が 40 代以下よりも高くなっています。

［魅力の創造と定住人口・交流人口の拡大］　（複数回答）

カテゴリ	回答数（人）	構成比（%）
地域資源の活用	626	45.4
文化財保護の推進	162	11.8
行政経営力の更なる強化	406	29.5
良好な景観の創造・保全，空き家対策	691	50.1
その他	49	3.6
不明・未記入	161	11.7
合計	1378	

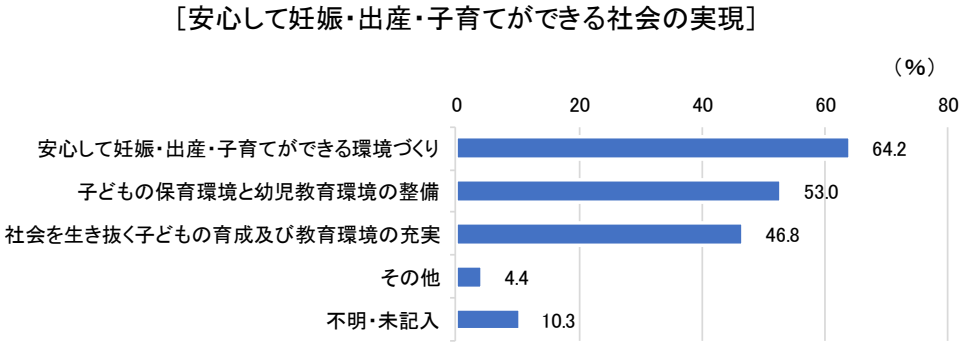


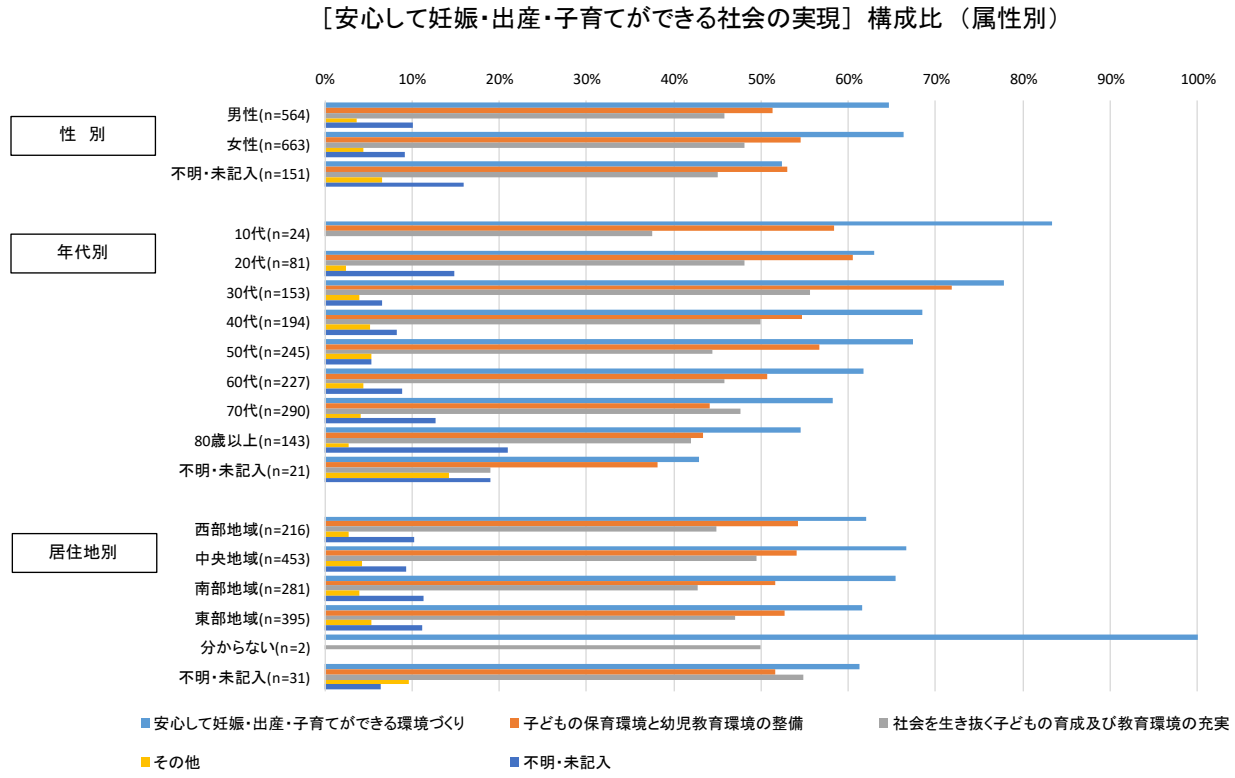


「良好な景観の創造・保全，空き家対策」と回答した人の割合が 50.1%と最も高く，次いで「地域資源の活用」(45.4%)が高くなりました。各項目とも男性の方が女性よりも高くなっています。年代別にみると，「良好な景観の創造・保全，空き家対策」，「地域資源の活用」は 10 代が最も高くなっています。

［安心して妊娠・出産・子育てができる社会の実現］　　（複数回答）

カテゴリ	回答数（人）	構成比（%）
安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくり	884	64.2
子どもの保育環境と幼児教育環境の整備	731	53.0
社会を生き抜く子どもの育成及び教育環境の充実	645	46.8
その他	60	4.4
不明・未記入	142	10.3
合計	1378	





「安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくり」と回答した人の割合が 64.2%と最も高く，次いで「子どもの保育環境と幼児教育環境の整備」(53.0%)が高くなり，いずれも過半数の人が回答しました。各項目とも女性の方が男性よりも高くなっています。年代別にみると，「安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくり」は10代，「子どもの保育環境と幼児教育環境の整備」，「社会を生き抜く子どもの育成及び教育環境の充実」は 30 代が最も高くなっています。

【問10】. 市政全般についてのご意見・ご提案について

市政全般についてのご意見・ご提案を自由形式で記入していただいたところ，全部で 386 人の方からご意見・ご提案をいただきました。この中から，次期総合計画を策定する上で参考になるもの（住みやすさに関する御意見，定住意向に関する御意見，各取組分野における改善の方向性が分かる御意見など）を抽出いたしました。

【10 代・20 代】

- 市が主催の婚活イベントや住宅家賃補助制度など，将来の家庭構築を見据えた取組を検討してほしい。
- 新型コロナウイルス感染症で得た教訓を次の医療体制にフィードバックしてほしい。
- 最新機能を搭載した自動車を購入しただけでは，街を走行するうえで安全性の向上には繋がらないと考える。未然に交通事故を防げるようなハード面の整備を進めてほしい。
- 晩婚化や少子化を防ぐためにも，働きやすい環境づくりに力を入れてほしい。テレワークの推進や DX の強化など，子育てがしやすい環境があれば，少子化問題も軽減できるかと思う。
- 海に近い地域に避難先となる高台が少ない。特に海に近い保育園・幼稚園での津波が起きた際の避難先が遠く徒歩での避難が不可能に近いと考える。
- 働きながら妊娠，育児を行っていく若い世代が生活しやすいよう，支援を増やしてほしい。
- 安心して子どもたちが登下校できる環境整備を進めてほしい。
- 鈴鹿市は交通面でもバスの本数が少ない。また，不登校や学校に行けない子ども達への支援が圧倒的に足りないと思う。鈴鹿市に中学，高校の定時制・通信制の学校を増やしてほしい。

【30 代・40 代】

- 各地域のこまかい防災マップを地域で作りたいと思うが，誰かにチェックしてもらい，アドバイスをもらいたい。また，学校の先生だけでなく保育所，幼稚園，小・中学校などでも，子ども向けに専門の方から防災の授業をしてほしい。（火災・地震・津波・大雨・台風などでどんな危険があるか，どう行動するべきかを伝え，自ら命を守れるようにしてほしい。）
- 「まちづくり」や「文化創造」において，地方だからこそできるフットワークの軽い政策を求めている。“何か新しいことをしたい若者の聖地“のような場所になってほしい。それは文化の面でも(音楽など)ビジネスの面でも同様で，それがひいては産業になり，この街の魅力になるのではないでしょうか。市民も行政も一緒に一歩をふみ出すことができる街，それが若者にとっても(多くの他の市民にとっても)安心な街だと思う。
- 昨年の出産を機に鈴鹿市の出産や育児に関する取組を知った。 保育所入所に関する手続を担当課に問い合わせた際，職員の説明がすごく分かりやすかった。
- 様々な活動や推進について，情報が行き渡っていないことも多いと思う。分かりやすい情報発信と窓口を増やしてほしい。(どこに相談すれば良いのか誰に聞けば良いのか…)これからも安心して住める地域であってほしい。
- ゴミの分別が面倒。ゴミの分別が必要なくなれば日々のゴミ処理の負担が軽減されるだけでなく，ゴミの最終処分量の削減にもつながると思う。

- 公共交通機関が少なすぎて，車がないと移動できない所が多すぎる。コミュニティーバスの運行を行っているが，運行していない日や時間も限られているので不便である。全く通っていない所もある。高齢になった時，とても不安である。せめて主要な近鉄・JR の駅などに行ける手段があるとかなり便利になると思う。交通が不便だったので子ども達の送迎など大変だった。（便利であれば自主的に動けるので）
- 四日市に通勤しているが，主要道路の整備不足により常に渋滞している。整備の加速をお願いする。

【50 代・60 代】

- 地域医療，介護の面から地域包括ケアシステムが充実し，誰もがどんな健康状態であっても住み続けられる地域を作ってほしい。
- 市民と行政が力を合わさなければ，将来，過疎化，人口減少，偏りの行政や人材しか残らない市になると思う。市民に寄り添った行政・住みやすいまちを一緒に作っていきたい。人は財産である。力を合わせて大切にしていきたい。
- 救急隊員の親切な対応，医師の適切な判断，そして医療機間の迅速な対応がすばらしく感謝している。
- 他市と比べて，総合病院の数が少ない。老後に不安を感じる。市立病院の建設を考えてほしい。
- 学校の校舎・設備が老朽化しており，改善を希望する。小・中学校における 1 クラス人数の少人数化推進を希望する。
- 鈴鹿市は多文化共生の取組において，進んでおり，他自治体のモデルとなる取組がなされていると考えている。例えば非ネイティブ児童への日本語教育では，日本語教育コーディネーターの設置，JSL バンドスケールの導入等優れた取組がなされており，これらを引き続き継続的に推進してほしい。
- 幹線道路は立派であるが普段一番良く使用する道路が整備されていない。通学路において歩道や自転車道が整備されておらず子ども達や高齢者が安全に生活しにくい地域の様に感じられる。
- 子育てに関する取組が手厚く，子育て世代としてはとてもありがたい。自分達の子どもの世代が，「地元が好き」と思ってくれるようなまちになると良いなと思う。今後とも良いまちづくりを進めていただけるよう期待している。
- 政策等についてもっと分かりやすく見やすい状態で発信してほしい。
- 鈴鹿市の市政全般について，知る機会が少ないので，今回このアンケートで知ることが多かった。若い世代に届きやすいような機会があるともう少し，他人事ではなく自分事として捉えることができると思う。
- コミュニティーバスの運行を広げてほしい。高齢化になり免許を返納すると交通手段がなくなる。路線を多くしてほしいです。家の近くで利用できれば外出も可能である。

【70 代・80 歳以上】

- 認知症の方には色々な方がいるが，仕事や会話の場など明るく接することができる場を，持っていただけたらうれしいと思う。
- 三方よしの考え方が基本で市政でも同じだと思う。子ども，現役世代，高齢者，三者のバランスの取れた住み良い地域，まちづくりが，定住・移住の促進につながり，人口増及び鈴鹿市の発展に結果的につながると思う。
- 各地区のまちづくり協議会を通じ市政との協働をもっと進めるようお願いしたい。また，協働を進めるなかで補助金等について考えてほしいと思う。行政との協働に対し，押し付けることの無いように希望する。

- 津波避難ビルは本当に機能するのか？具体的な使用方法が周知されていない。
- 免許証を返納したいけれど日常の買物に大変不便な高齢者が多くいるということを知ってほしい。小さいバス(20 人乗り位)で地域をこまめに廻ることができれば返納者も沢山増えると思う。
- 鈴鹿市は工業・農業・漁業・林業とバランスの良い都市だと思うので，このままでそれぞれの発展を願う。
- 自家用車運転者の高齢化対策（買物サポート等)施策が必要である。